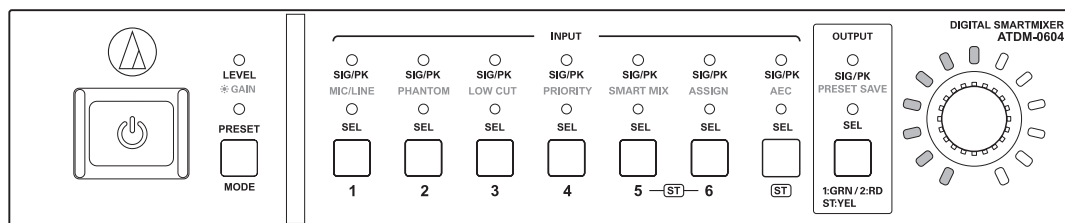


ATDM-0604

取扱説明書 デジタルスマートミキサー



目次

はじめに	3	インジケータについて	23
同梱品の確認	3	音声入力・出力設定画面の見かた	24
商標について	3	音声入力の詳細設定を行う	25
安全上の注意	4	入カタイプ(MIC/LINE)を切り替える	25
本製品について	4	ゲインを調整する	25
電源ケーブルについて	5	ファントム電源のON/OFFを設定する	25
使用上の注意	6	フェーズのON/OFFを設定する	25
本製品について	6	ローカットのON/OFFを設定する	25
お手入れ	6	4バンドEQのON/OFFを設定する	25
特長	7	4バンドEQを調整する	26
ATDM-0604の特長	7	AECのON/OFFを設定する	27
Audio-Technica LINKについて	7	スマートミキサーの状態を確認する	27
システムの設置について	7	バスアサインのON/OFFを設定する	27
ラックに設置する	7	チャンネル名と色を設定する	28
アンバランス(不平衡)接続について	9	ミュートを設定する	28
電源ケーブルの接続について	9	入力レベルを調整する	28
ユーロブロックコネクタの接続のしかた	9	音声出力の詳細設定を行う	29
システム接続例	10	ユニティレベルを設定する	29
自拠点でのディスカッション (Preset #2)	10	FBSのON/OFFを設定する	29
遠隔地とのディスカッション - ウェブ会議 (Preset #3)	11	EQのON/OFFを設定する	29
遠隔地とのディスカッション - ビデオ会議 (Preset #4)	11	FBS/EQを調整する	29
各部の名称と機能	12	ダイナミクス機能のON/OFFを設定する	32
フロントパネル	12	ダイナミクス機能を調整する	32
リアパネル	13	ディレイ機能のON/OFFを設定する	34
本製品の使いかた	14	ディレイ機能の遅延時間を設定する	34
本製品を起動する	14	チャンネル名と色を設定する	34
フロントパネルモードについて	14	出力レベルを調整する	35
フロントパネルモードを切り替える(オペレーターモード/アドバンスモード)	14	USB出力を設定する	35
機能を選択する	14	システムの詳細設定を行う(設定&保守)	36
オペレーターモード/アドバンスモードでできること	15	基本操作	36
アドバンスモードのみでできること	15	設定&保守画面について	36
IP Config Mode(Auto ⇄ Static)を切り替える	16	一般(システム設定)	37
フロントパネルをロックする	17	ネットワーク(システム設定)	38
ファームウェアバージョンを確認する	17	アクセス権限(システム設定)	39
ウェブリモートについて	18	オーディオ(システム設定)	40
ウェブリモートとは	18	フロントパネル(システム設定)	41
"Locate"とは	18	ユーティリティ(システム設定)	42
推奨環境	18	操作者用ページ(操作者権限)	43
ウェブリモートの事前準備	18	プリセット(プリセット)	44
ウェブリモートの概要	19	4 Band EQライブラリー(プリセット)	45
ウェブリモートの起動/ログイン	20	12 Band EQライブラリー(プリセット)	46
ウェブリモートを起動する	20	ログ設定(ログ設定)	47
ログイン画面について	20	システム情報(システム情報)	48
ウェブリモートにログインする	20	主な機能について	49
ウェブリモートからログアウトする	20	AEC(アコースティックエコーキャンセラー)	49
操作者画面について	21	スマートミキサー	52
管理者画面について	22	Audio-Technica LINK	55
ヘッダー部分について	22	フロントパネルの操作制限について	58

目次

プリセットを呼び出す	59
プリセットについて	60
設定をコピーする	63
設定をリセットする	64
チャンネルをリンクする	65
ES954 (ハンギングアレイマイクロホン) を使用する	66
ダッカー機能	70
メニュー項目一覧	71
音声設定	71
設定&保守	75
故障かな?と思ったら	77
ATDM-0604本体	77
ウェブリモート	78
エラーメッセージ一覧	79
外形寸法図	80
テクニカルデータ	81
一般仕様	81
オーディオ	81
その他	82
入力/出力仕様	82
系統図	83

はじめに

お買い上げありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。また、いつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

同梱品の確認

本製品をご使用になる前に、下記同梱品がすべてそろっていることを確認してください。
万一、同梱品に不足や損傷がある場合は、当社プロフェッショナルSS課までご連絡ください。

- ATDM-0604本体
- ユーロブロックコネクタ ×10
- ラックマウント(長・短)
- ラックマウントねじ ×6
- 電源ケーブル
- ゴム脚 ×4
- クイックスタートガイド

商標について

- SMARTMIXER™は株式会社オーディオテクニカの商標または登録商標です。
- Apple、Appleロゴは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- iOSは、米国およびその他の国におけるCisco社の商標または登録商標です。
- App Storeは、Apple Inc.のサービスマークです。
- Google、Googleロゴ、Google Play、Google Playロゴ、Android™は、Google Inc.の商標または登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

安全上の注意

本製品は安全性に十分な配慮をして設計していますが、使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。



警告

この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。



注意

この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

本製品について

警告

- **付属の電源ケーブル以外使用しない**
電流容量などの違いにより、火災・感電の原因になります。また、故障・不具合の原因になります。
- **異常（音、煙、臭いや発熱、損傷など）に気付いたら使用しない**
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店に修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- **火気に近づけない／火の付いたキャンドルなどを上に置かない**
火災の原因になります。
- **分解や改造はしない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **強い衝撃を与えない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **濡れた手で触れない**
感電によるけがの恐れがあります。
- **水をかけない／水滴や水しぶきのかかる場所に置かない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **本製品に異物（燃えやすい物、金属、液体など）を入れない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **じゅうたんや布などで覆わない**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火のそばに置かない**
事故や火災の原因になります。

注意

- **すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができる場所に置く**
電源ボタンを切っても、コンセントからは完全に遮断されていません。故障、不具合の原因になります。
- **不安定な場所に置かない**
本製品の落下などにより、けがや故障の原因になります。
- **換気の良い場所に置く**
本製品を換気の悪い場所に置くと、熱がこもり、火災など事故の原因になります。ラックなどに入れるときは、放熱をよくするために本製品の周りに隙間を空けてください。
- **直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。また、故障、不具合の原因になります。
- **本製品の上に物（花瓶・植木鉢・水の入ったコップ・金属など）を置かない**
万一、倒れた場合、感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **ベンジン、シンナー、接点復活保護剤など薬品は使用しない**
変形、故障の原因になります。

安全上の注意

電源ケーブルについて

警告

- **表示している電源電圧以外で使用しない**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **本製品以外には使用しない**
電流容量などの違いにより、火災・感電の原因になります。また、故障・不具合の原因になります。
- **異常(音、煙、臭いや発熱、損傷など)に気付いたら使用しない**
異常に気付いたらすぐに使用を中止して、コンセントから抜きお買い上げの販売店に連絡してください。
そのまま使用すると、火災など事故の原因になります。
- **ケーブルは釘などで固定しない、束ねたまま使用しない**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **コンセントや本体にプラグを差し込むときは根元まで確実に差し込む**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **ケーブルを引っ張らず、プラグを持ってまっすぐ抜き差しする**
断線、故障の原因になります。
- **ケーブルの上に物を置いたり、敷物や家具などの下に入れたりしない**
断線、故障の原因になります。
- **分解や改造はしない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **強い衝撃を与えない**
感電によるけがや、火災など事故の原因になります。
- **濡れた手で触れない**
感電によるけがの恐れがあります。
- **布などで覆わない**
過熱による火災など事故の原因になります。
- **プラグにたまったほこりなどは乾いた布で定期的に拭き取る**
長い間掃除をしないと、火災など事故の原因になります。
- **すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにする**
電源ボタンを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

注意

- **長時間使用しないときは、コンセントから抜く**
火災の原因になることがあります。安全のため、必ずコンセントから抜いてください。また、省エネルギーにご配慮ください。
- **足に引っ掛かりやすい場所にケーブルを引き回さない**
故障や事故の原因になります。
- **ベンジン、シンナー、接点復活保護剤など薬品は使用しない**
変形、故障の原因になります。

使用上の注意

本製品について

- ご使用の際は、接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ケーブルの抜き差しは、本製品の電源を切ってから行ってください。
- テレビやラジオのアンテナ付近で使用すると、テレビやラジオにノイズが入る場合があります。その場合は離して使用してください。

お手入れ

- 汚れたときやほこりが付いたときは電源プラグを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- ベンジン、シンナー、接点復活保護剤など、薬品は使用しないでください。変形、破損、故障の原因になります。
- 長い間保存するときには、本製品をビニールなどで包み、湿気を帯びないようにしてください。

特長

ATDM-0604の特長

- 4マイク入力、2マイク/ライン入力、1アンバランスステレオ入力
- 2バランス出力、1アンバランスステレオ出力
- USB オーディオ入出力(1ステレオ入力、1ステレオ出力)
- ゲインシェアリング、ゲートモードのいずれかを選択可能な SmartMixer 搭載
- 同時使用が可能なエコーキャンセラーとノイズキャンセラー(最大6マイク入力)を搭載
- 各入力系統に4バンドEQ、各出力系統に12バンドのEQを搭載
- 各出力系統にはコンプ、リミッター、8バンドのフィードバックサプレッサーを搭載
- 音声入出力の設定はフロントパネルから行うことができ、詳細設定はウェブリモートを使いパソコンから設定可能
- IP Remote Protocol による外部からの制御が可能
- ハンギングマイクロホン ES954に対応し、ウェブリモートを使いパソコンから設定可能
- ダツカー機能搭載

Audio-Technica LINKについて

本製品は、最大6台のATDM-0604をデジチェーン接続し、システム全体で24マイク入力、12マイク/ライン入力、6アンバランスステレオ入力の音声入力に対応可能です。機器間の音声パス信号の伝送に、独自フォーマット「Audio-Technica LINK」を採用し、低レイテンシーの高速信号伝送により、安定した制御と非圧縮音声信号の伝達を可能としています。また、イーサネット規格に準拠し、汎用的なLANケーブル(Cat5e以上、導体サイズ24AWGの径以上、シールド付きを推奨)による接続が可能なため、高い施工性を実現しています。

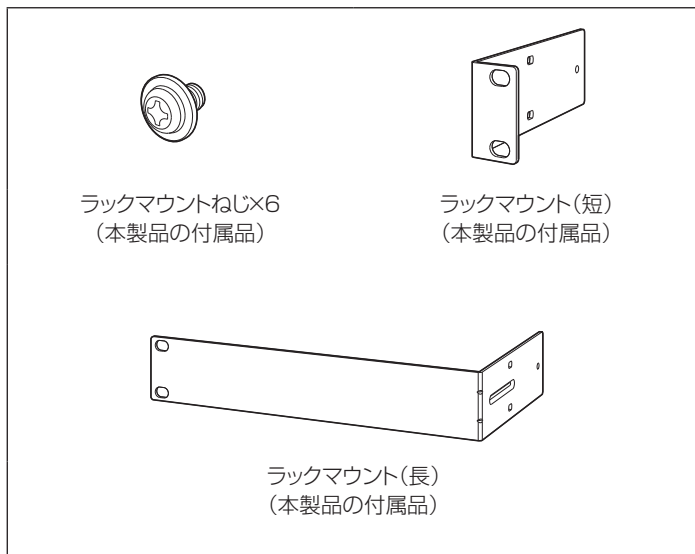
システムの設置について

ラックに設置する

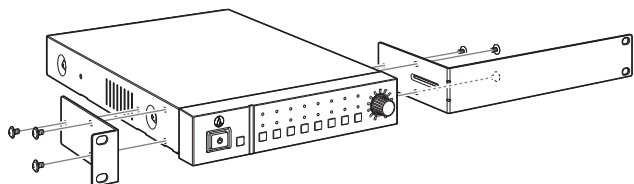
本製品を設置する際は、付属のラックマウントを使用して設置することができます。

- 本製品をラックに設置する場合は、ラック内の温度が40℃以上にならないようにしてください。内部に悪影響を与え、故障の原因となります。
- ほかの機器やラックとの隙間は、天面、側面、背面に各10cm以上確保してください。
- ラックの仕様要件は以下のとおりです。
 - EIA規格の19インチラック
 - 1Uサイズ取り付け対応のラック
 - 本製品を支えるガイドレールや本製品を載せる棚板があるラック
- ラックマウントは以下のねじで本製品に固定されています。付属品以外のねじを使用する場合は、以下を確認してください。
 - Sタイト(タッピングねじ)、呼径4 × 6

システムの設置について

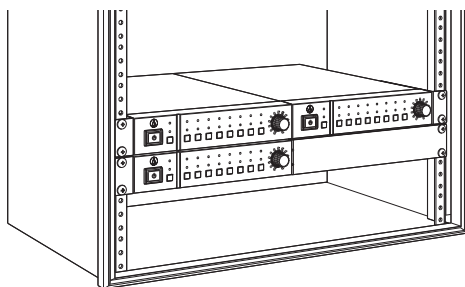


1. 本製品にラックマウントを取り付けます。



2. 本製品をラックに取り付けます。

• ラックへの取り付けは、ラックに付属または市販のねじを使用してください。



システムの設置について

アンバランス(不平衡)接続について

シャーシ電位の違いによる誘導ノイズを受けやすくなるため、各機器間のシャーシ電位を合わせて使用してください。

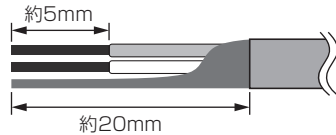
- 各機器間の電源位相を合わせてください。
- 電源系統を統一してください。
- 各機器のGND(グラウンド)端子またはシャーシを接続してください。

電源ケーブルの接続について

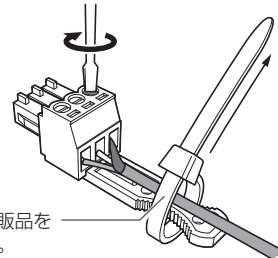
- 電源プラグを保護接地されている適切なコンセントに接続してください。確実に接地しないと、感電の原因になります。

ユーロブロックコネクターの接続のしかた

1. ケーブルを図のようにむき出して配線します。
 - より線ははんだ処理しないでください。

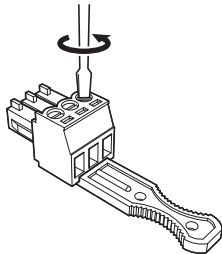


4. ねじを締め、結束バンドでケーブルをまとめます。

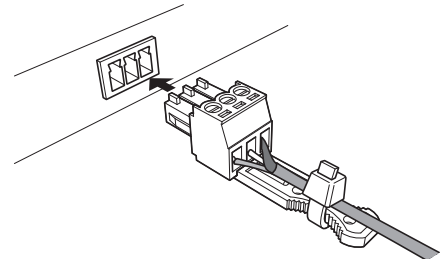


結束バンドは市販品をご使用ください。

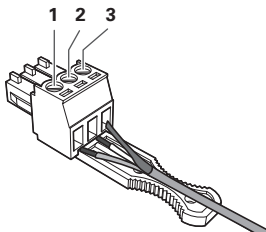
2. マイナスドライバーで、ねじを緩めます。



5. ユーロブロックコネクターを本製品に接続します。



3. ピンアサインを確認し、それぞれケーブルを接続します。

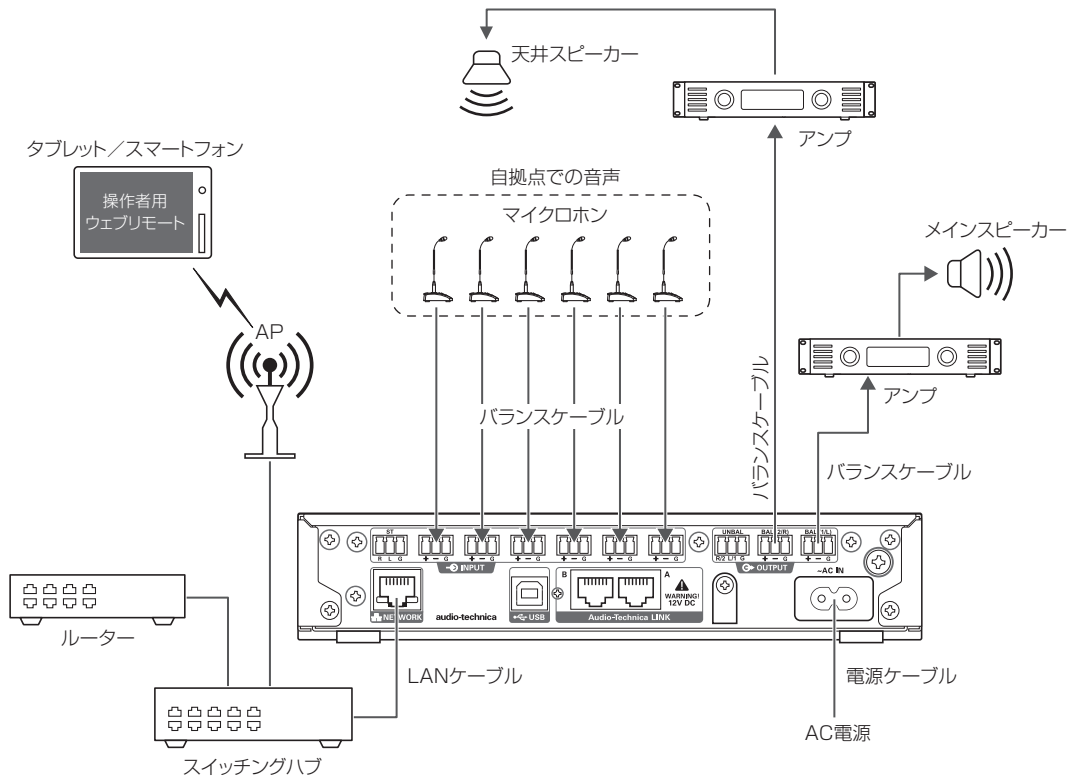


- ピンアサインについて

		1	2	3
INPUT	1 to 6	+: HOT	-: COLD	G: GND
	ST	R: RIGHT	L: LEFT	G: GND
OUTPUT	1/L, 2/R	+: HOT	-: COLD	G: GND
	UNBAL	R: RIGHT	L: LEFT	G: GND

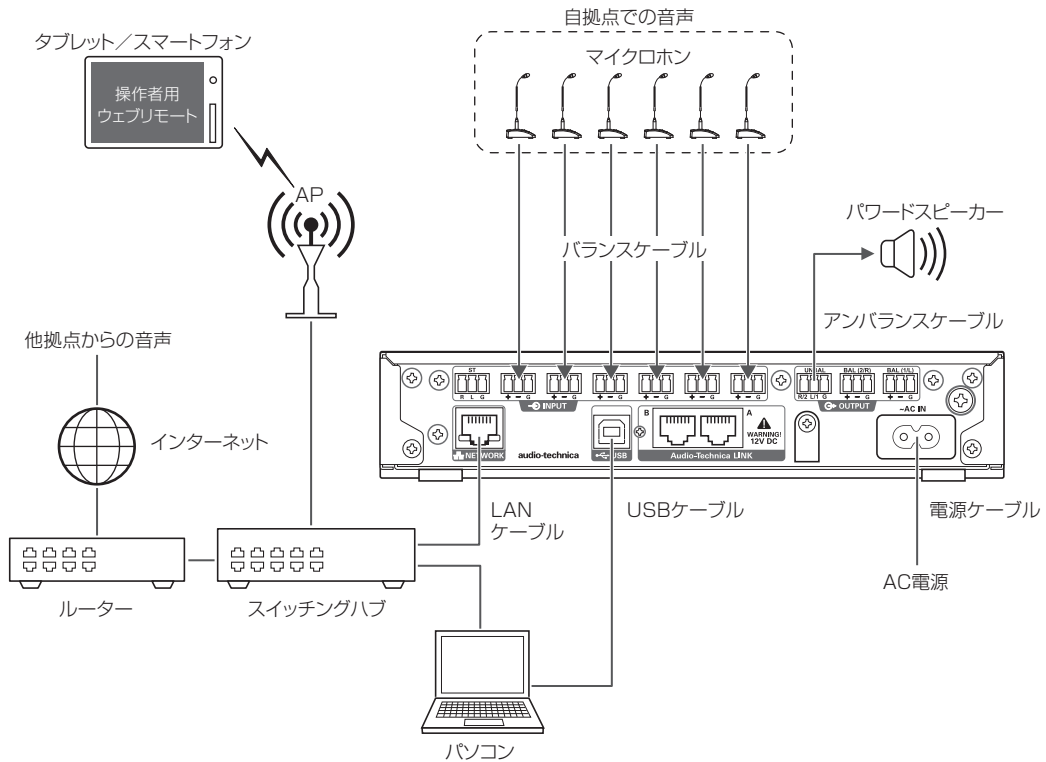
システム接続例

自拠点でのディスカッション (Preset #2)

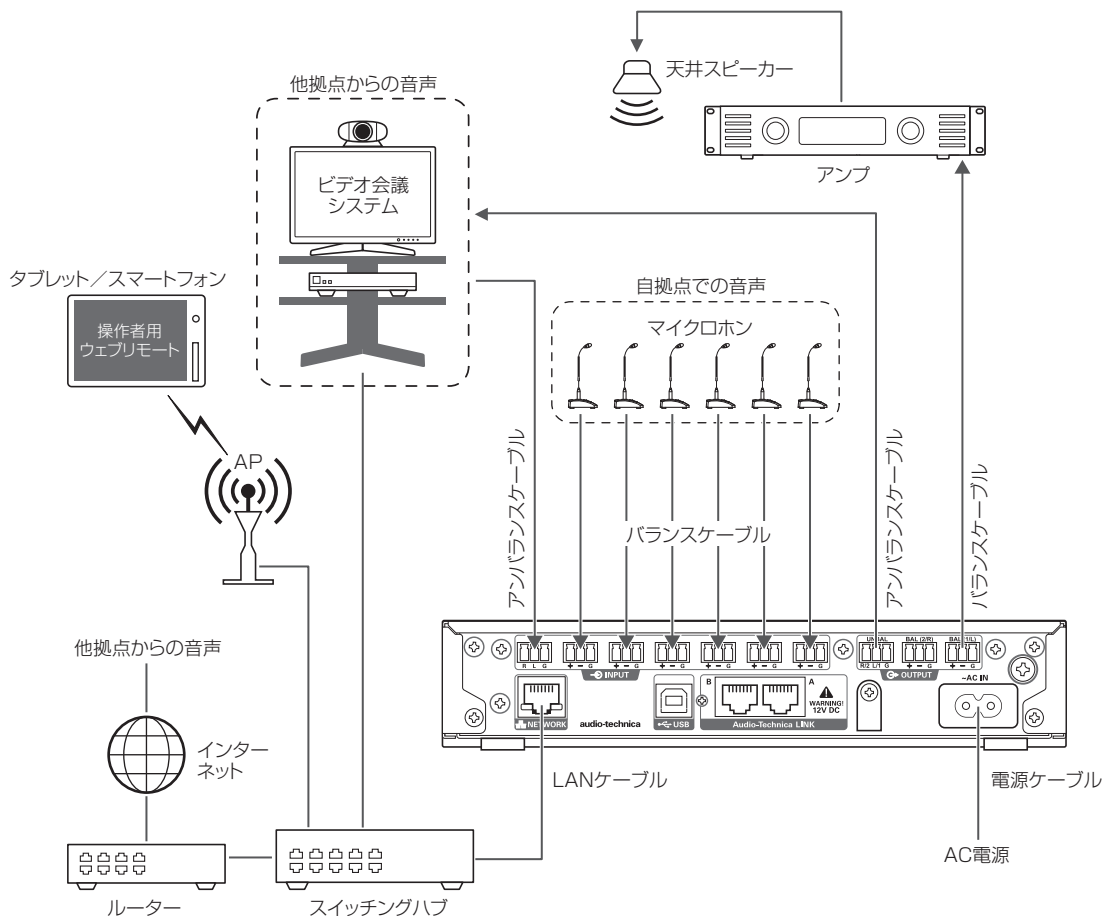


システム接続例

遠隔地とのディスカッション - ウェブ会議 (Preset #3)

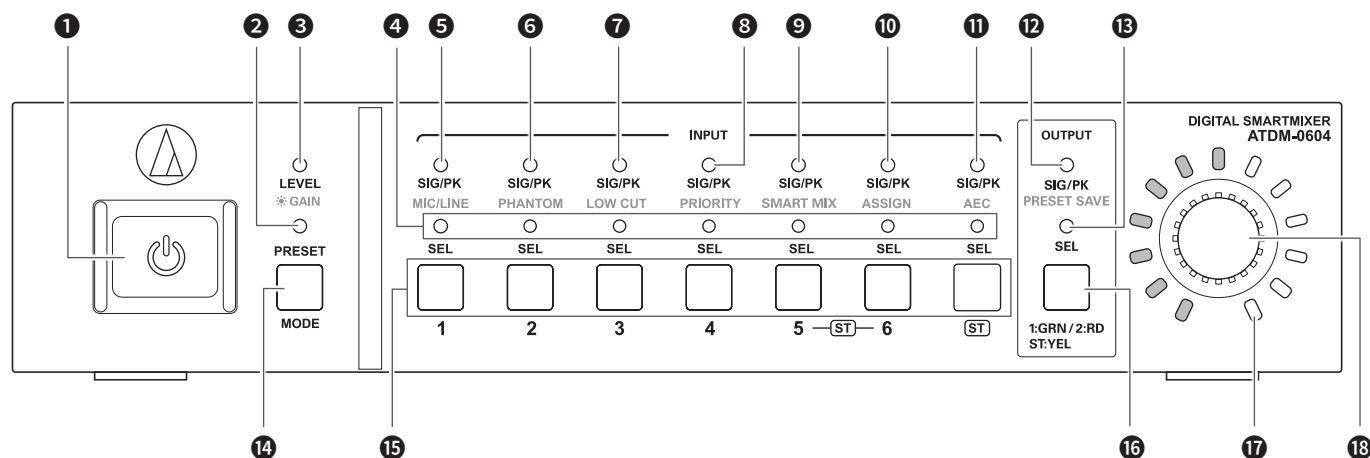


遠隔地とのディスカッション - ビデオ会議 (Preset #4)



各部の名称と機能

フロントパネル

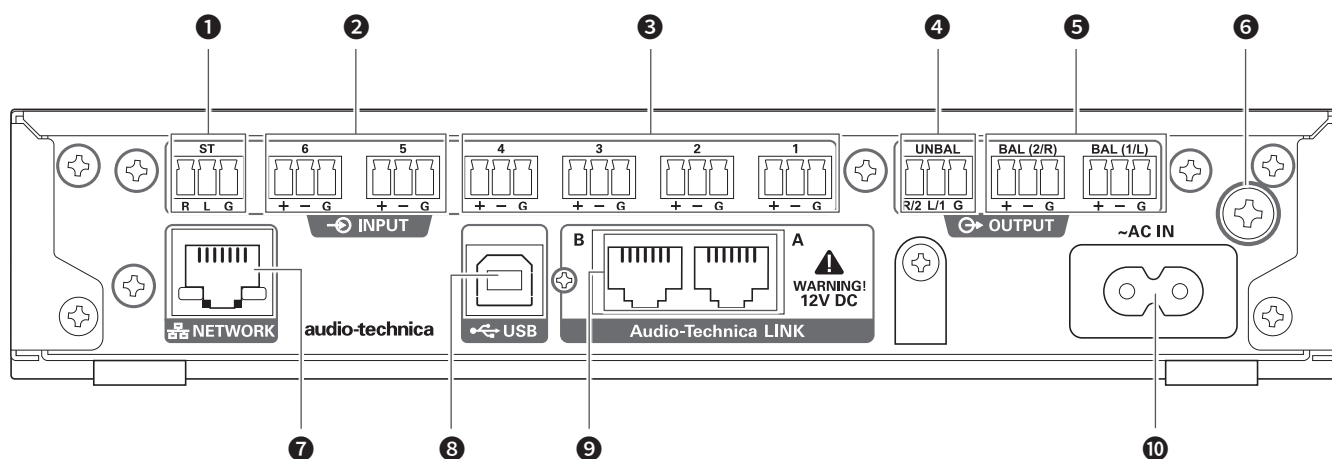


- 電源ボタン ()**
本製品の電源をON / OFFします。
- PRESET LED**
電源起動時に点灯 / 点滅して、起動処理中であることを表します。
プリセットの呼び出し時に、点灯します。
- LEVEL・GAIN LED**
点灯: 入力レベル / 出力レベルを調整することができます。
点滅: ゲインの調整をすることができます。
- INPUT SEL LED**
入力チャンネルやプリセットバンク番号、各チャンネルの機能 / 設定状態を表します。
- SIG/PK・MIC/LINE LED**
レベルまたはゲイン調整時には、入力チャンネル1の信号レベルを表します。
また、入力タイプ(MIC / LINE)を切り替えるときに点灯します。
- SIG/PK・PHANTOM LED**
レベルまたはゲイン調整時には、入力チャンネル2の信号レベルを表します。
また、ファントム電源のON / OFFを設定するときに点灯します。
- SIG/PK・LOW CUT LED**
レベルまたはゲイン調整時には、入力チャンネル3の信号レベルを表します。
また、ローカットのON / OFFを設定するときに点灯します。
- SIG/PK・PRIORITY LED**
レベルまたはゲイン調整時には、入力チャンネル4の信号レベルを表します。
また、プライオリティのON / OFFを設定するときに点灯します。
- SIG/PK・SMART MIX LED**
レベルまたはゲイン調整時には、入力チャンネル5の信号レベルを表します。
また、スマートミキサーのON / OFFを設定するときに点灯します。
- SIG/PK・ASSIGN LED**
レベルまたはゲイン調整時には、入力チャンネル6の信号レベルを表します。
また、出力バスアサインを設定するときに点灯します。
- SIG/PK・AEC LED**
レベルまたはゲイン調整時には、入力チャンネルSTの信号レベルを表します。
また、AECのON / OFFを設定するときに点灯します。
- SIG/PK・PRESET SAVE LED**
レベルまたはゲイン調整時には、出力チャンネルの信号レベルを表します。
また、プリセットを保存するときに点灯します。
- OUTPUT SEL LED**
出力チャンネルの選択状態を表します。
- MODE ボタン**
機能を選択します。
- INPUT SEL ボタン**
入力チャンネルやプリセット番号を選択します。
- OUTPUT SEL ボタン**
出力チャンネルを選択します。
出力1: 緑色、出力2: 赤色、出力ST: 黄色に点灯します。
- ボリュームLED**
レベルまたはゲイン調整時、選択されたチャンネルの現在の設定値を表します。
- ダイヤルボタン**
ダイヤルボタンを回して選択し、押して決定します。

各部の名称と機能

- LEDの状態には、5種類の動作があります。
 - (1) 点灯：選択されていること、機能がONになっていることを表します。
 - (2) 消灯：選択されていないこと、機能がOFFになっていることを表します。
 - (3) 点滅：選択中などを表します。500ms周期でステータスが変わるまで繰り返します。
 - (4) 速い点滅：操作の拒否を表します。200ms周期で5回点滅を繰り返します。
 - (5) ディマー点灯：輝度を落として点灯します。
- SIG/PK LEDの点灯色と信号レベルの範囲は以下のとおりです。
 - LED点灯(赤)：0dBFS～-5dBFS
 - LED点灯(黄)：-6dBFS～-24dBFS
 - LED点灯(緑)：-25dBFS～-59dBFS
 - LED消灯：-60dBFS以下

リアパネル



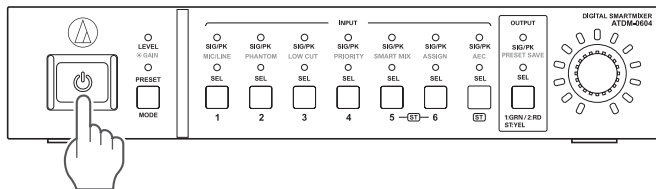
- 1 アンバランス入力端子(ST)**
アンバランス入力端子です。アンバランスケーブルを接続します。
ピンアサインは、1:STEREO R、2:STEREO L、3:GNDです。
- 2 バランス入力端子(MIC / LINE)**
バランス入力端子です。バランスケーブルを接続します。設定により、入力タイプ(MIC / LINE)の切り替えができます。
ピンアサインは、1:HOT、2:COLD、3:GNDです。
- 3 バランス入力端子(MIC)**
バランス入力端子です。バランスケーブルを接続します。
ピンアサインは、1:HOT、2:COLD、3:GNDです。
- 4 アンバランス出力端子(UNBAL)**
アンバランス出力端子です。アンバランスケーブルを接続します。
ピンアサインは、1:STEREO R/2、2:STEREO L/1、3:GNDです。
- 5 バランス出力端子(BAL 1/L・2/R)**
バランス出力端子です。バランスケーブルを接続します。
ピンアサインは、1:HOT、2:COLD、3:GNDです。
- 6 アース用ネジ**
付属の電源ケーブルは2芯プラグのため、電源ケーブルではアース接続されません。必要に応じてアース接続を行ってください。
- 7 NETWORK 端子**
NETWORK 端子です。LANケーブル(CAT5e以上)を接続します。
- 8 USB 端子**
USB 端子(USB TypeB)です。USBケーブルを接続します。
- 9 LINK A / B 端子**
LINK A / B 端子です。Audio-Technica LINKで使用します。
LANケーブル(CAT5e以上、導体サイズ24AWGの径以上、シールド付きを推奨)を接続します。
- 10 ACインレット**
電源ケーブルを接続します。

本製品の使いかた

本製品を起動する

1. 電源ボタンを押します。

- PRESET LEDが点灯→点滅し、LEVEL・GAIN LEDが点灯します。その後、PRESET LEDが消灯してオペレーターモードで起動します。



フロントパネルモードについて

本製品では、フロントパネルのボタンやダイヤルを使用して操作する場合に、以下の2つのモードを用意しています。

オペレーターモード:

プリセット設定の読み込みや音声レベルの調整など日々の運用を行うモード

アドバンスモード:

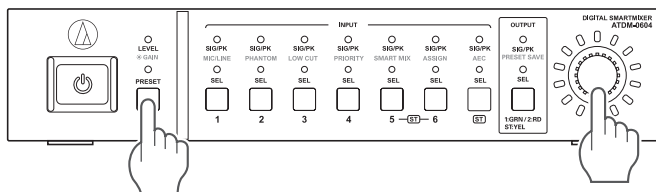
本製品を現場へ設置・導入し、詳細な設定を行うモード

- 通常、電源をONにするとオペレーターモードで起動します。そのため、誤操作による機器の設定変更などのトラブルを未然に防ぎ、システムの安全な運用を可能としています。

フロントパネルモードを切り替える (オペレーターモード/アドバンスモード)

オペレーターモードとアドバンスモードを切り替えます。

1. MODE ボタンを押しながら、ダイヤルボタンを長押し(1秒以上)します。



2. LED が点灯/点滅/消灯し、フロントパネルモードが切り替わります。

- オペレーターモードに切り替わる場合
(1) LEVEL・GAIN LEDとPRESET LEDが点灯します。
(2) PRESET LEDが消灯します。
(3) フロントパネルモードがオペレーターモードに切り替わります。
- アドバンスモードに切り替わる場合
(1) LEVEL・GAIN LED、PRESET LEDとSIG/PK・MIC/LINE LEDからSIG/PK・PRESET SAVE LEDまでが点灯します。
(2) LEVEL・GAIN LED以外のLEDが消灯し、LEVEL・GAIN LEDが点滅します。
(3) フロントパネルモードがアドバンスモードに切り替わります。

機能を選択する

MODE ボタンを押す、またはMODE ボタンを押しながらダイヤルボタンを回して、機能を選択します。

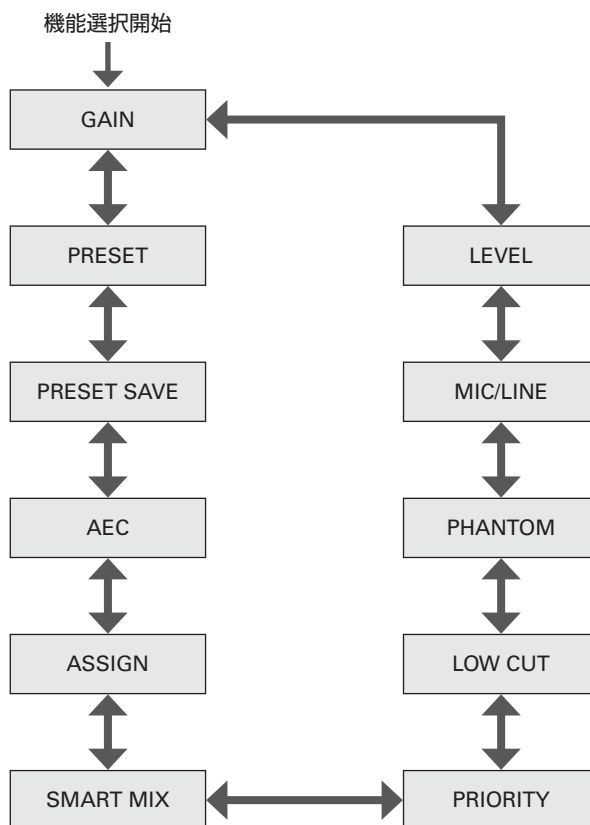
- 選択している機能は点灯するLEDで判別します (LEVEL・GAIN LED、PRESET LEDまたはSIG/PK・MIC/LINE LEDからSIG/PK・PRESET SAVE LEDのいずれか)。

オペレーターモードで選択できる機能



アドバンスモードで選択できる機能

MODE ボタンを押すたびに、図の時計回りで機能が切り替わります。また、MODE ボタンを押しながらダイヤルボタンを回すと、回した方向にしたがって機能が切り替わります。



本製品の使いかた

オペレーターモード／アドバンスモードで できること

プリセットを呼び出す

保存されているプリセットデータを読み出して、現在の設定を変更します。

1. 「PRESET」を選択します。
 - PRESET LEDが点灯します。
2. 呼び出したいプリセットデータ(1から6)をINPUT SEL ボタンを押して選択します。
 - INPUT SEL LEDとボリュームLEDが点滅します。
3. ダイヤルボタンを押します。
 - プリセットデータが読み込まれて、設定が変更されます。

入力レベルを調整する

MIC / LINEの入力レベルを設定します。入力タイプで「LINE」を選択している場合はPAD(入力信号を一定のレベルで減衰させる機能)が入ります。

1. 「LEVEL」を選択します。
 - LEVEL・GAIN LEDが点灯します。
 - 各入力チャンネルのSIG/PK LEDが入力レベルに応じて点灯します。
2. 調整したい入力チャンネルのINPUT SEL ボタンを押します。
 - INPUT SEL LEDが点灯し、設定値にしたがってボリュームLEDが点灯します。
 - 0dB(-20dBFS)のポイントを表すボリュームLEDが点滅します。
3. ダイヤルボタンを回して入力レベルを調整します。
 - 調整操作にしたがってボリュームLEDが点灯／消灯します。
 - 0dB(-20dBFS)のポイントに合致すると、点滅していたボリュームLEDが点灯に変わります。

出力レベルを調整する

出力レベルを設定します。

1. 「LEVEL」を選択します。
 - LEVEL・GAIN LEDが点灯します。
 - 出力チャンネルのSIG/PK LEDが出力レベルに応じて点灯します。
2. 調整したい出力チャンネルをOUTPUT SEL ボタンを押して選択します。
 - OUTPUT SEL LEDが、選択した出力チャンネルにしたがって色が変わって点灯します。(OUTPUT 1:緑、OUTPUT 2:赤、OUTPUT ST:黄)
 - 設定値にしたがってボリュームLEDが点灯します。
 - 0dB(-20dBFS)のポイントを表すボリュームLEDが点滅します。
3. ダイヤルボタンを回して出力レベルを調整します。
 - 調整操作に従ってボリュームLEDが点灯／消灯します。
 - 0dB(-20dBFS)のポイントに合致すると、点滅していたボリュームLEDが点灯に変わります。

アドバンスモードのみでできること

アドバンスモードに切り替えて操作してください。

入力タイプ(MIC / LINE)を切り替える

入力のタイプを設定します。入力チャンネル5 / 入力チャンネル6のみ設定することができます。

1. 「MIC / LINE」を選択します。
 - SIG/PK・MIC/LINE LEDが点灯します。
2. INPUT SEL ボタンを押すと、入力タイプがMIC ⇄ LINE(+4dBu)に切り替わります。
 - INPUT SEL LEDが点灯すればLINE、消灯すればMICを表します。

ゲインを調整する

マイク入力の入力ゲインを設定します。

1. 「GAIN」を選択します。
 - LEVEL・GAIN LEDが点滅します。
 - 各入力チャンネルのSIG/PK LEDが入力レベルに応じて点灯します。
2. 調整したい入力チャンネルのINPUT SEL ボタンを押します。
 - INPUT SEL LEDが点灯し、設定値にしたがってボリュームLEDが点灯します。
 - -40dBのポイントを表すボリュームLEDが点滅します(入力タイプで「MIC」を選択している場合のみ)。
3. ダイヤルボタンを回してゲインを調整します。
 - 調整操作にしたがってボリュームLEDが点灯／消灯します。
 - -40dBのポイントに合致すると、点滅していたボリュームLEDが点灯に変わります。

• ゲインの調整を行っているとき、ダイヤルボタンを押すたびに、ボリュームLEDをゲイン設定値の表示とレベルメーター表示に切り替えることができます。必要に応じて表示を切り替えて使用してください。また、OUTPUT SEL ボタンとダイヤルボタンで、各音声出力のユニティレベルを切り替えることができます。

ファントム電源のON / OFFを設定する

ファントム電源(+48V)のON / OFFの設定をします。入力タイプが「MIC」の場合のみ設定することができます。

1. 「PHANTOM」を選択します。
 - SIG/PK・PHANTOM LEDが点灯します。
2. INPUT SEL ボタンを押すと、ファントム電源がON ⇄ OFFに切り替わります。
 - INPUT SEL LEDが点灯していれば、ファントム電源ON、消灯していればOFFを表します。

プリセットを保存する

現在の設定をプリセットに保存します。

1. 「PRESET SAVE」を選択します。
 - SIG/PK・PRESET SAVE LEDが点灯します。
 - 現在呼び出されているプリセットがある場合、そのプリセット番号のINPUT SEL LEDが点灯します。
2. 保存先(PRESET 1からPRESET 6)をINPUT SEL ボタンを押して選択します。
 - INPUT SEL LEDとボリュームLEDが点滅します。
3. ダイヤルボタンを押します。
 - プリセットが指定した保存先に保存されます。

本製品の使いかた

ローカットのON/OFFを設定する

入力音声の低域をカットするかを設定します。

1. 「LOW CUT」を選択します。
 - SIG/PK・LOW CUT LEDが点灯します。
2. INPUT SEL ボタンを押すと、ローカットがON ⇔ OFFに切り替わります。
 - INPUT SEL LEDが点灯していれば、ローカットON、消灯していればOFFを表します。

プライオリティのON/OFFを設定する

チャンネルの優先権を設定します。スマートミキサーがONで、ゲートモードに設定されている場合のみ設定することができます。

1. 「PRIORITY」を選択します。
 - SIG/PK・PRIORITY LEDが点灯します。
2. INPUT SEL ボタンを押すと、プライオリティがON ⇔ OFFに切り替わります。
 - INPUT SEL LEDが点灯していれば、プライオリティONを表し、消灯していればOFFを表します。

スマートミキサーの有効/無効を設定する

スマートミキサーの有効/無効設定を切り替えます。

スマートミキサーのモード設定(ゲートモードまたはゲインシェアモード)はウェブリモートで設定してください(P.52)。

1. 「SMART MIX」を選択します。
 - SIG/PK・SMART MIX LEDが点灯します。
2. INPUT SEL ボタンを押すと、スマートミキサーが有効⇔無効に切り替わります。
 - INPUT SEL LEDが点灯:
スマートミキサーが有効で、そのチャンネルはゲートモードまたはゲインシェアモードで音声をミックスします。
 - INPUT SEL LEDが消灯:
スマートミキサーが無効です。

バスアサインを設定する

入力チャンネルの出力バスアサインおよび確認を行います。

1. 「ASSIGN」を選択します。
 - SIG/PK・AEC LEDが点灯します。
2. OUTPUT SEL ボタンを押して、アサインおよび確認を行う出力バスを選択します。
 - INPUT SEL LEDが点灯していれば、そのチャンネルは選択された出力バスにアサインされています。消灯していればアサインされていません。
 - INPUT SEL ボタンを押すと、バスアサインを切り替えることができます。
INPUT SEL LEDが点灯:
出力バスにアサインされます。スマートミキサーがONのときでも、スマートミキサーをスルーした音声信号が出力されます。
INPUT SEL LEDが点滅:
出力バスにアサインされます。スマートミキサーがONのとき、スマートミキサー後の音声信号が出力されます。
INPUT SEL LEDが消灯:
いずれの出力バスにもアサインされません。

AECのON/OFFを設定する

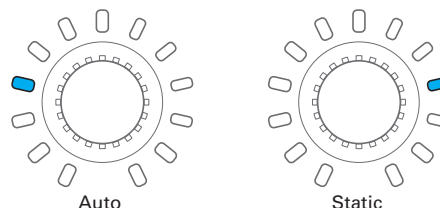
AEC(アコースティックエコーキャンセラー)のON/OFFを設定します。

1. 「AEC」を選択します。
 - SIG/PK・AEC LEDが点灯します。
2. INPUT SEL ボタンを押すと、AECがON ⇔ OFFに切り替わります。
 - INPUT SEL LEDが点灯していれば、AEC ON、消灯していればOFFを表します。
 - 入力チャンネルSTのINPUT SEL ボタンを押すと、AECのモードを切り替えることができます。
入力チャンネルSTのINPUT SEL LEDが点灯 : AEC with NC
入力チャンネルSTのINPUT SEL LEDが点滅 : Noise Canceling
入力チャンネルSTのINPUT SEL LEDが消灯 : OFF

IP Config Mode(Auto ⇔ Static)を切り替える

IPアドレスの取得方法を設定します。

1. 電源ボタンを押します。
 - PRESET LEDが点灯します。
2. PRESET LEDが点滅を始めたら、MODE ボタン、入力チャンネル4のINPUT SEL ボタンとOUTPUT SEL ボタンを押し続けます。
3. LEVEL LEDが点灯したら、MODE ボタン、入力チャンネル4のINPUT SEL ボタンとOUTPUT SEL ボタンから手を離します。
4. IP Config Modeの設定にしたがって、ボリュームLEDが点灯します。



5. ダイヤルボタンを回して、IP Config Modeを切り替えます。
6. 本製品を再起動します。

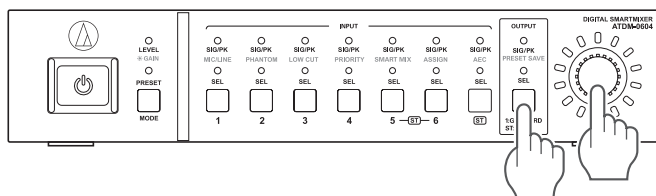
本製品の使いかた

フロントパネルをロックする

フロントパネルの操作ができないようにロックをかけることができます。

1. OUTPUT SEL ボタンを押しながら、ダイヤルボタンを長押し(1秒以上)します。

- フロントパネルがロックされます。もう1度同じ操作をすると、ロックが解除され、オペレーターモードでは入出力レベル調整、アドバンスモードではゲイン調整ができる状態になります。
- PRESET LED、LEVEL・GAIN LED、INPUT SEL LED、ボリュームLEDは消灯します。
- OUTPUT SEL LEDはロック時の選択状態を維持して点灯します。
- その他のLEDは、音声の入力があったときのレベルに応じて点灯します。

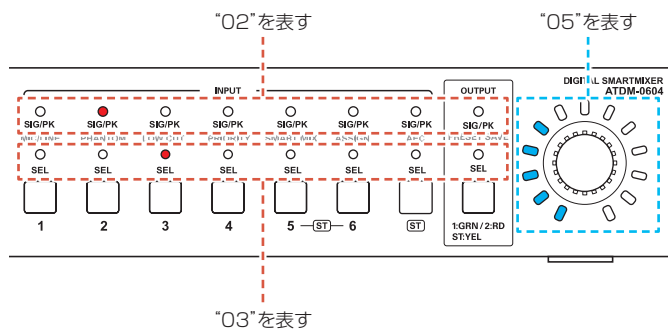


ファームウェアバージョンを確認する

本製品のファームウェアバージョンを確認することができます。

1. 電源ボタンを押します。
 - PRESET LEDが点灯します。
2. PRESET LEDが点滅を始めたら、MODEボタンとダイヤルボタンを押し続けます。
3. LEVEL LEDが点灯したらボタンから手を離します。
 - ファームウェアのバージョンに当たってLEDが点灯します。

(例)ファームウェアのバージョンが「02.03.05」の場合



4. ファームウェアバージョンを確認したあと、本製品の電源を切ります。

ウェブリモートについて

ウェブリモートとは

ウェブリモートとは、本製品をコントロールするウェブアプリケーションです。Windowsパソコン、Mac、iOS 機器および Android 機器(以下コントロール機器)から、以下の項目をリモートコントロールできます。

- 本製品の状態確認
- 本製品の各種設定変更

“Locate”とは

“Locate”は、ウェブリモート用ランチャーアプリケーションです。コントロール機器を接続したあと、“Locate”を起動します。“Locate”を使用すると、設置されている本製品のIPアドレスを入力することなく簡単にウェブリモートにアクセスできます。

- “Locate”を使用しないでウェブリモートを起動することもできます。

推奨環境

ウェブリモートおよび“Locate”が動作するOS

- Microsoft Windows 7 以降
- Apple OS X 10.11 El Capitan 以降
- Android OS 5.0 以降
- iOS 9 以降

ウェブリモート推奨ウェブブラウザ

- Microsoft Internet Explorer 11 (Windows)
- Google Chrome ver.57以降 (Windows および Android)
- Mozilla Firefox ver.52以降 (Windows)
- Safari 10 以降 (OS X and iOS)

- ウェブリモートに同時にログインできるのは、コントロール機器最大3台までです。ただし1台のコントロール機器上で2種類のウェブブラウザを起動している場合は、2台とカウントされます。
- ウェブリモートを終了する場合は、必ずログアウトしてからウェブブラウザの画面を閉じてください。ログアウトせずに画面を閉じると、セッションが切れず、ウェブリモートにログインしたままの状態になる場合があります。
- ウェブリモートの最小画面サイズは1024×768ピクセルです。コントロール機器のディスプレイモニターは、ウェブリモート画面をウェブブラウザで表示できるサイズのモニターをご使用ください。

ウェブリモートの事前準備

本製品をコントロール機器と接続する

1. コントロール機器と本製品を接続する前に、それぞれネットワークに関する設定を行います。
 - IP アドレスを自動的に取得して接続する場合
(1) 本製品のIP Config Modeを「Auto」に設定します。
 - 工場出荷時は「Auto」に設定されています。
 - (2) コントロール機器のネットワーク設定を行い、ネットワークに接続します。
 - IP アドレスを固定して接続する場合
(1) 本製品のIP Config Modeを「Static」に設定します。
 - IPアドレスは固定値に設定されます。
デフォルト値は「192.168.33.102」です。

2. 本製品とコントロール機器を、有線または無線で接続します。
3. 本製品とコントロール機器の電源を入れます。
 - IPアドレスを自動的に取得して接続する場合、IPアドレスの確定に時間がかかる場合があります。

“Locate”をセットアップする

1. コントロール機器に“Locate”のインストーラー／アプリケーションをダウンロードします。
 - Windows、Macを使用している場合：
ご使用の国または地域の当社ホームページ(www.audio-technica.com)からダウンロードしてください。
 - iOS、Androidを使用している場合：
App Store、Google Play ストアからダウンロードしてください。
ダウンロードしたあとは、手順4に進んでください。
2. ダウンロードした“setup.exe”をダブルクリックします。
 - セットアップウィザードが表示されます。
3. 画面上に表示された指示に従い、“Locate”をインストールします。
 - インストールが完了すると、デスクトップに“Locate”のアイコンが表示されます。
4. ATDM-0604がコントロール機器と同じネットワーク上に接続され、電源がONであることを確認したあと、“Locate”のアイコンをダブルクリックします。
 - “Locate”が起動します。ネットワークに接続されているATDM-0604が自動検出されます。
5. ウェブリモートコントロールを行いたいATDM-0604を選び、「Open」をクリックします。
 - ウェブリモートのログイン画面が表示されます。

Identify	Name	Model	IP Address	Link Status
<input type="radio"/>	ATDM-0604	ATDM-0604	192.168.11.4	- <input type="button" value="Open"/>
<input type="radio"/>	ATDM-0604	ATDM-0604	192.168.11.3	- <input type="button" value="Open"/>

- 「Identify」のアイコンをクリックすると、アイコンが赤く点灯し、該当するATDM-0604のフロントパネルにあるインジケータ類が点滅します。システム上にATDM-0604が複数あり、“Locate”のリストに表示されているATDM-0604を特定したい場合に使用してください。

ウェブリモートについて

ウェブリモートの概要



ログイン画面

操作者でログイン



Windows・Mac画面

iOS・Android画面

管理者でログイン



音声設定

Input :

マイクrohホンやほかの音響機器からの音声入力に対して、ゲインやレベル、EQ(イコライザー)、Smart Mixなどの各種設定を行います。

Output :

音声出力に対してレベルやFBS、EQ(イコライザー)、Dynamicsなどの各種設定を行います。

設定 & 保守

システム設定 :

ネットワーク、アクセス権、Audio-Technica LINKなどに関する設定や、ファームウェアのアップデートを行います。

操作者権限 :

操作者でログインした場合の操作画面について、各種設定を行います。

プリセット :

プリセットの呼び出しや保存、外部とのプリセットデータの読み込み・書き出しを行います。

ログ設定 :

ログメッセージに関する設定とログメッセージのダウンロードを行います。

システム情報 :

各種ネットワーク設定、本製品のシリアル番号やファームウェアバージョンなど、システムに関する情報を表示します。



・管理者でログインする場合は、必ずWindowsパソコンまたはMacからアクセスしてください。タブレットやスマートフォンからの操作については、動作保証しておりません。

ウェブリモートの起動/ログイン

ウェブリモートを起動する

“Locate” から起動する

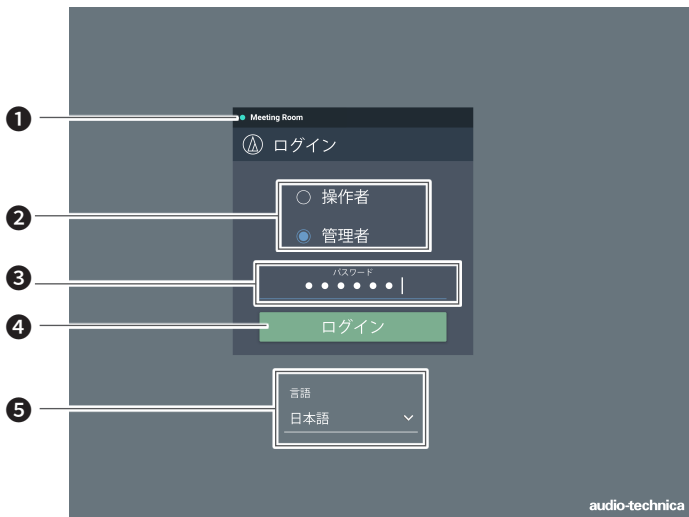
1. コントロール機器にインストールした“Locate”を起動します。
2. ウェブリモートを起動させたいATDM-0604をリストから選択します。
 - ・ ウェブリモートが起動し、ログイン画面が表示されます。

IPアドレスを直接指定して起動する

本製品のIPアドレスがわかる場合は、直接IPアドレスを指定してウェブリモートを起動することができます。

1. コントロール機器のウェブブラウザを起動します。
2. ウェブリモートを起動させたいATDM-0604のIPアドレスを入力します。
 - ・ ウェブリモートが起動し、ログイン画面が表示されます。

ログイン画面について



1 機器名称

本製品で任意に設定された名称を表示します。

2 ログインユーザー選択

ログインユーザーを「操作者」/「管理者」から選択します。

3 パスワード

パスワードを入力します。

- ・ 「管理者」でのログインに、ロックがかかっている場合に表示されます。パスワードの設定は「ログイン・パスワード」(P.39)を参照してください。

4 ログインボタン

5 言語

ウェブリモートで表示される言語を設定します。

ウェブリモートにログインする

1. 「操作者」/「管理者」を選択して「ログイン」をクリックします。
 - ・ 「管理者」を選択すると、パスワード入力欄が表示されます。パスワードを入力してから「ログイン」をクリックしてください。



ウェブリモートからログアウトする

1. ログアウトアイコンをクリックします。



2. 「ログアウト」をクリックします。

- ・ ウェブリモートからログアウトします。

操作者画面について

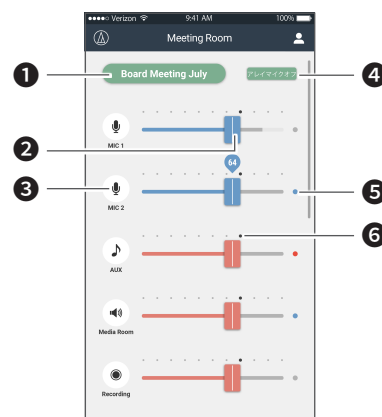
「操作者」でログインすると、簡単な操作で、日々の運用に必要なプリセットの読み出しや音量の調整などができます。

Windows・Mac 画面



- ① **プリセット表示**
クリックしてプリセットを呼び出すことができます。
- ② **音量調整つまみ**
各入出力システムの音量を調整します。
青：入力系統
赤：出力系統
- ③ **入出力アイコン**
各入出力系統の種類と名称を表示しています。
「操作者用ページ制限」(P.43)で「アレイマイク切替」をONにしておくと、クリックするたびにミュートのON/OFFが切り替わります。

iOS・Android 画面



- ④ **アレイマイクオフ**
クリックして、アレイマイクをオフにすることができます。
- ⑤ **レベルメーター**
各系統のレベルを表示します。
 - 入力系統の場合：
青：入力あり
グレー：入力なし
 - 出力系統の場合：
青：レベルが-6~-59dBFSのとき
赤：レベルが-5dBFS以上のとき
グレー：入力なし
- ⑥ **基準ポイント**
基準ポイント(70%)のときに、音声入力画面で調整した通りのバランスになります。

管理者画面について

ヘッダー部分について

「管理者」でログインすると、入出力設定や設定&保守の画面を表示することができます。
画面上部のヘッダー部分は画面が遷移しても常時表示されます。

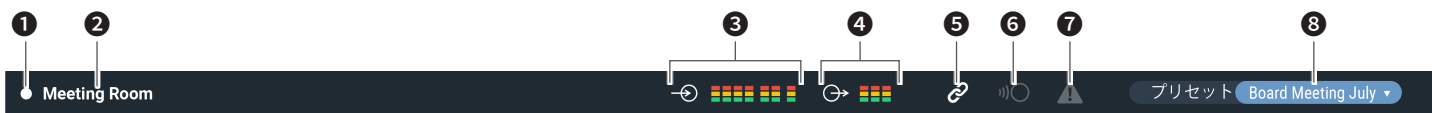
ヘッダー部分



入力設定



設定&保守



- 1 機器カラー**
本製品を複数台操作する際の目印です。
- 2 機器名称**
本製品で任意に設定された名称を表示します。
- 3 入力インジケータ**
入力レベルを表示します。
- 4 出力インジケータ**
出力レベルを表示します。
- 5 Audio-Technica LINKステータス**
Audio-Technica LINKの接続状況を表示します。
- 6 IPリモートステータス**
IP経由による制御が行われていることを表示します。
- 7 エラーステータス**
エラー状態を表示します。
- 8 プリセット**
プリセットの選択と読み込まれたプリセット名を表示します。

管理者画面について

インジケータについて

ステータス	アイコン表示	状態説明
Audio-Technica LINK ステータス		Audio-Technica LINK で接続する機器が、正しく接続されていません。
		Audio-Technica LINK で接続する機器が、正しく接続されています。
		Audio-Technica LINK に障害が発生しています。
		
IP リモートステータス		リモート制御を受けていません。
		リモート制御を受けています。
		リモート制御に障害が発生しています。
		
エラーステータス		エラーがありません。
		エラーがあります。

エラー内容表示について

アイコンに三角マークが表示されている場合、アイコンをクリックするとエラー内容が表示されます。エラー内容を確認したあと、アイコンからカーソルを離すと、三角マークは表示されなくなります。



三角マーク

管理者画面について

音声入力・出力設定画面の見かた



- 1 クリックすると、ウェブリモートのバージョンと、当社ホームページが確認できます。
- 2 クリックすると、音声入力・出力設定画面を切り替えることができます。
- 3 クリックすると、設定 & 保守画面に切り替えることができます。

- 4 各入力チャンネルの音声入力設定を行うことができます。
- 5 各項目をクリックすると詳細設定メニューが表示されます。
「Smart Mix」: P.52を参照してください。
「AEC」: P.50を参照してください。
「USB OUT」: P.35を参照してください。
- 6 各出力チャンネルの音声出力設定を行うことができます。

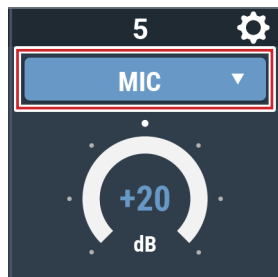
・設定や状態により、機能の設定や操作ができない場合があります。その場合は、表示がグレーアウトまたは非表示となります。

音声入力の詳細設定を行う

入カタイプ(MIC / LINE)を切り替える

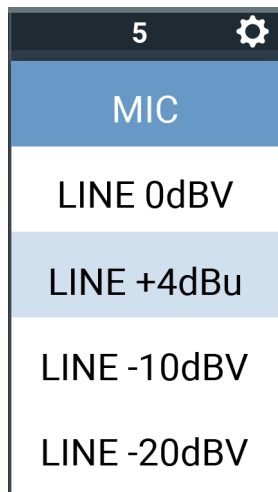
入カタイプを設定します。

1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。



2. プルダウンメニューから選択したい入カタイプを選択します。

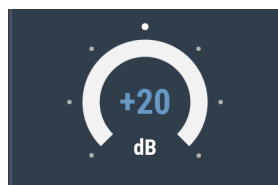
・入カタイプが切り替わります。



ゲインを調整する

マイク入力の入カゲインを設定します。

1. メーターをドラッグしてゲインを調整します。
 - ・数字部分をクリックして、直接ゲインを入力することもできます。



・ゲイン調整中、レベルメーターは青色になり、プリフェーダーレベルを表示するので、そのレベルを確認しながら調整します。

ファントム電源のON / OFFを設定する

ファントム電源(+48V)のON / OFFの設定をします。入カタイプが「MIC」の場合のみ設定することができます。

1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。
 - ・クリックするたびに、ON(青色) / OFF(色なし)が切り替わります。



フェーズのON / OFFを設定する

入力音声の位相を反転します。

1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。
 - ・クリックするたびに、ON(青色) / OFF(色なし)が切り替わります。



ローカットのON / OFFを設定する

入力音声の低域をカットするかを設定します。

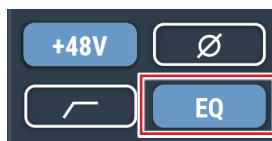
1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。
 - ・クリックするたびに、ON(青色) / OFF(色なし)が切り替わります。



4バンドEQのON / OFFを設定する

音声入力に適用する4バンドEQのON / OFFを設定します。

1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。
 - ・クリックするたびに、ON(青色) / OFF(色なし)が切り替わります。

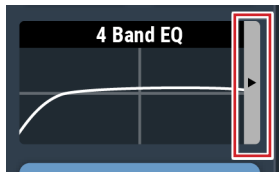


音声入力の詳細設定を行う

4バンドEQを調整する

音声入力に適用する4バンドEQを設定します。

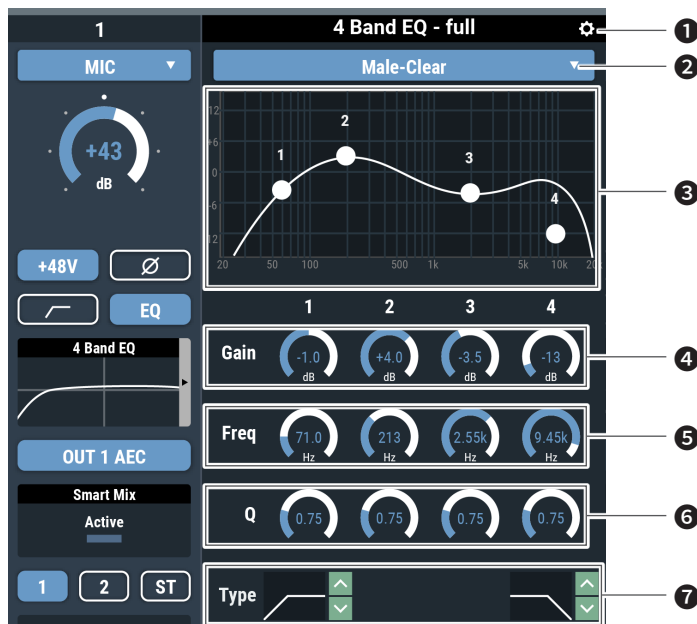
1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。
 - ・設定画面が表示されます。



2. 各項目を設定します。



設定画面の見かた(詳細モード)



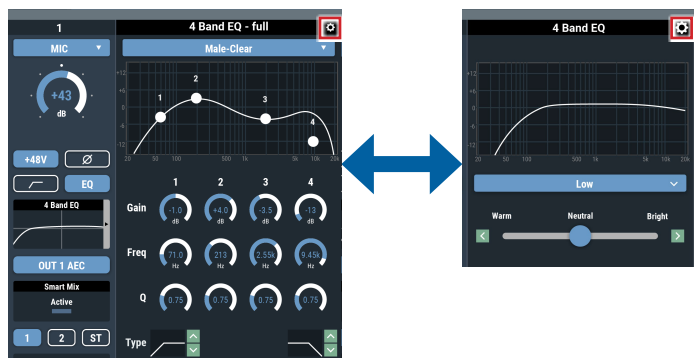
- 1 EQプリセットを保存、EQの周波数特性波形のリセット、また設定画面を切り替えます。
- 2 EQライブラリーから、EQプリセットを呼び出します。
 - ・呼び出したあと、設定を変更した場合、表示は空欄となります。
- 3 EQの周波数特性波形を表示、編集します。
- 4 メーターをドラッグまたは数値を直接入力することで、ゲインを変更します。
- 5 メーターをドラッグまたは数値を直接入力することで、周波数を変更します。
- 6 メーターをドラッグまたは数値を直接入力することで、Q値を変更します。
- 7 フィルタータイプを変更します。

設定画面を切り替える

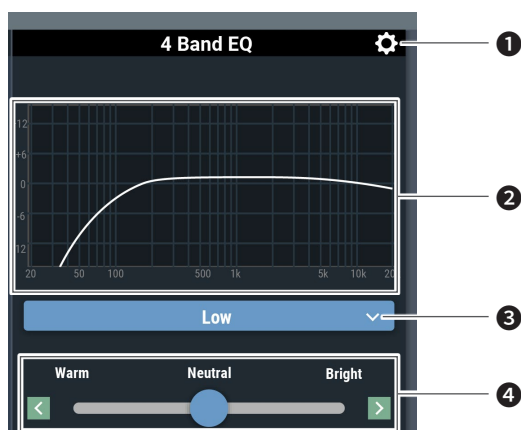
設定画面は簡易表示の「簡易モード」と、すべての設定が表示される「詳細モード」があります。

簡易モード (Easy Mode)	あらかじめ用意されたEQパターンから選択することで、簡単にEQの調整ができます。
詳細モード (Expert Mode)	バンドごとにパラメーターの設定ができるので、細かいEQの調整ができます。

画面右上のアイコン(⚙️)をクリックして切り替えることができます。



設定画面の見かた(簡易モード)



- 1 EQプリセットを保存、EQの周波数特性波形のリセット、また設定画面を切り替えます。
- 2 EQの周波数特性波形を表示します。
- 3 音声の種類を選択します。
- 4 音色を調整します。

音声入力の詳細設定を行う

AECのON/OFFを設定する

AEC(アコースティックエコーキャンセラー)のON/OFFを設定します。

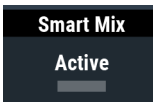
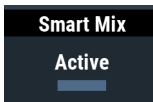

1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。
 - クリックするたびに、ON(青色)/OFF(色なし)が切り替わります。

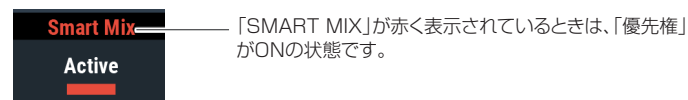


スマートミキサーの状態を確認する

1. 下記画面の赤枠部分を確認します。
 - 画面をクリックすると、スマートミキサーの設定画面が表示されます。設定について詳しくは、「スマートミキサー」(P.52)を参照してください。



	OFFの状態です。
	ONの状態です。
	ON状態で、スマートミキサーが機能している状態です。

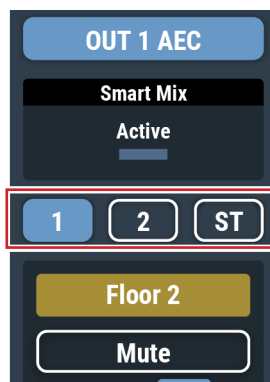


バスアサインのON/OFFを設定する

チャンネルごとに、出力バスのON/OFFを切り替えます。

1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。
 - クリックするたびに、ON (紫色)/ON (青色)/OFF (色なし)が切り替わります。

ON (紫色)	スマートミキサーがONのとき、スマートミキサー後の音声信号が出力されます。
ON (青色)	出力バスにアサインされます。スマートミキサーがONのときでも、スマートミキサーをスルーした音声信号が出力されます。
OFF	いずれの出力バスにもアサインされません。

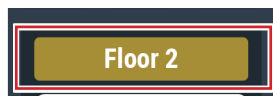


音声入力の詳細設定を行う

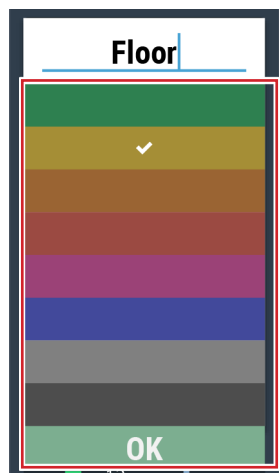
チャンネル名と色を設定する

各チャンネルのチャンネル名と任意の色を設定します。

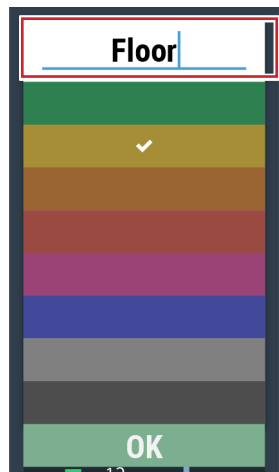
1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。



2. 任意の色を選択します。



3. テキスト部分をクリックして、任意のチャンネル名を入力します。



4. 「OK」をクリックします。

ミュートを設定する

チャンネルごとに、ミュートのON/OFFを切り替えます。

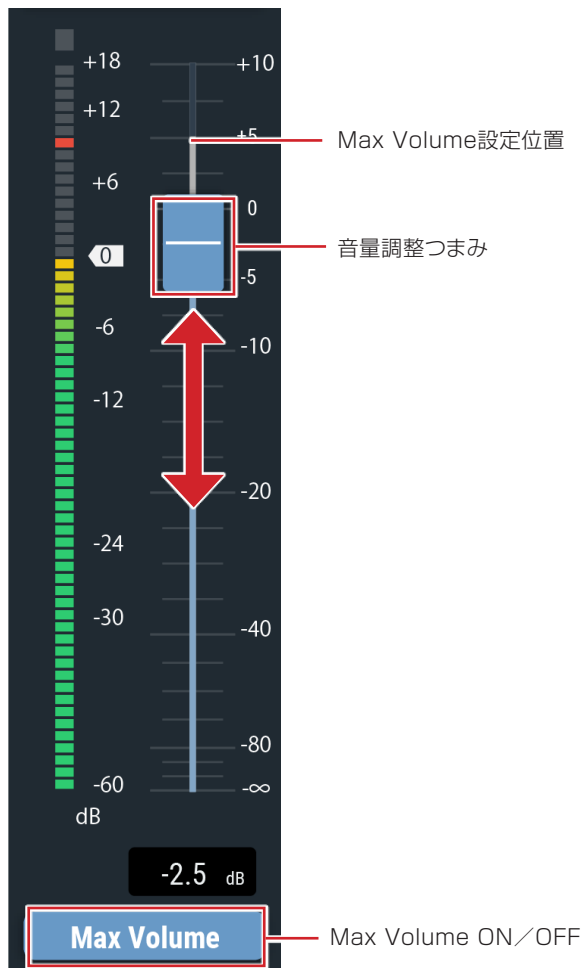
1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。
 - クリックするたびに、ミュートON(赤色)/ミュートOFF(色なし)が切り替わります。



入力レベルを調整する

チャンネルごとに、MIC / LINEの入力レベルを設定します。

1. 音量調整つまみをドラッグし、上下に移動させて入力レベルを調整します。



Max Volumeを設定する

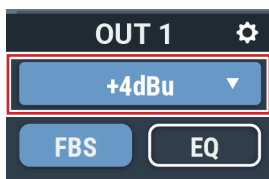
チャンネルごとに、Max Volume 値を決め、そのON/OFFを設定します。

1. 「Max Volume」をクリックします。
 - クリックするたびに、ON(青色)/OFF(色なし)が切り替わります。
 - ONにしたときの位置で、フェーダーの上限が設定されます。設定された位置より上の範囲はグレーアウトします。位置を変更する場合は、OFFにしてから、再度ONに設定します。

音声出力の詳細設定を行う

ユニティレベルを設定する

1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。

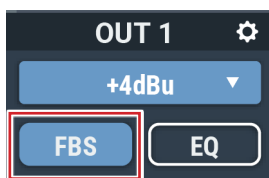


2. プルダウンメニューからユニティレベルを選択します。
 - ・ユニティレベルが切り替わります。

FBSのON/OFFを設定する

チャンネルごとに、FBS(フィードバックサプレッサー)のON/OFFを切り替えます。

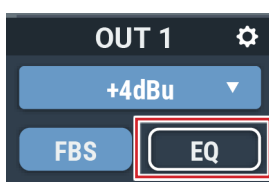
1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。
 - ・クリックするたびに、ON(青色)/OFF(色なし)が切り替わります。



EQのON/OFFを設定する

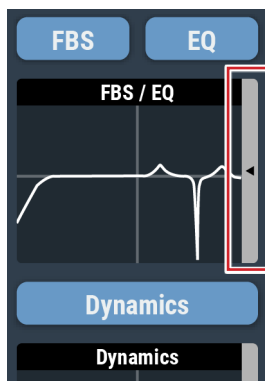
チャンネルごとに、EQのON/OFFを切り替えます。

1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。
 - ・クリックするたびに、ON(青色)/OFF(色なし)が切り替わります。



FBS/EQを調整する

1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。
 - ・設定画面が表示されます。

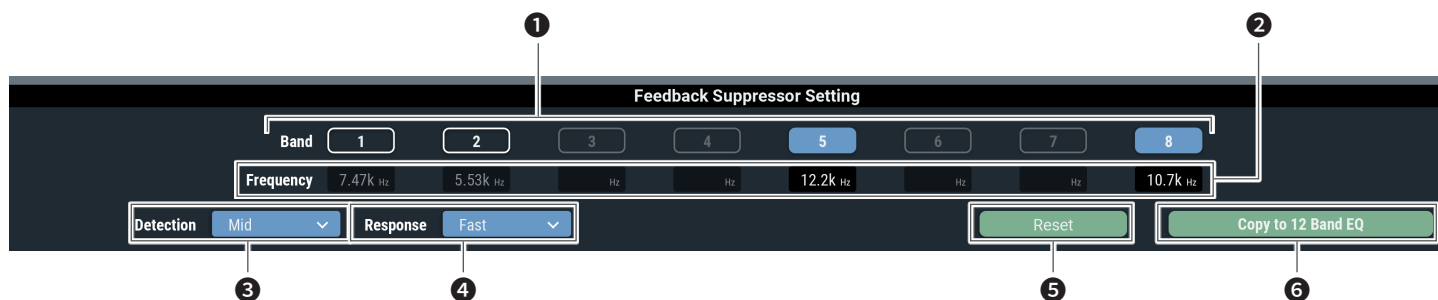


2. 各項目を設定します。



音声出力の詳細設定を行う

設定画面の見かた (FBS)



① 各バンドのステータスが表示されます。また、動的、静的の切り替えができます。

	<p>動的状態です。</p> <ul style="list-style-type: none">フィードバック周波数が検出され、FBSが機能していることを表します。フィードバック周波数は15秒間継続したあと、自動的に消えます。次に新たに検出されるまでは、フィードバック周波数の表示は空白となり、待機状態となります。
	<p>静的状態です。</p> <ul style="list-style-type: none">動的状態でアイコンをクリックすると、そのバンドを固定し、静的状態にすることができます。再度クリックすると、そのバンドの静的状態は解除され、待機状態となります。
	<p>待機状態です。</p> <ul style="list-style-type: none">新たなフィードバック周波数が検出されるのを待っている状態です。

② フィードバックが検出されている周波数を表示します。

③ フィードバックの抑制の強さを選択します。

④ フィードバックに対する抑制がかかる速さを選択します。

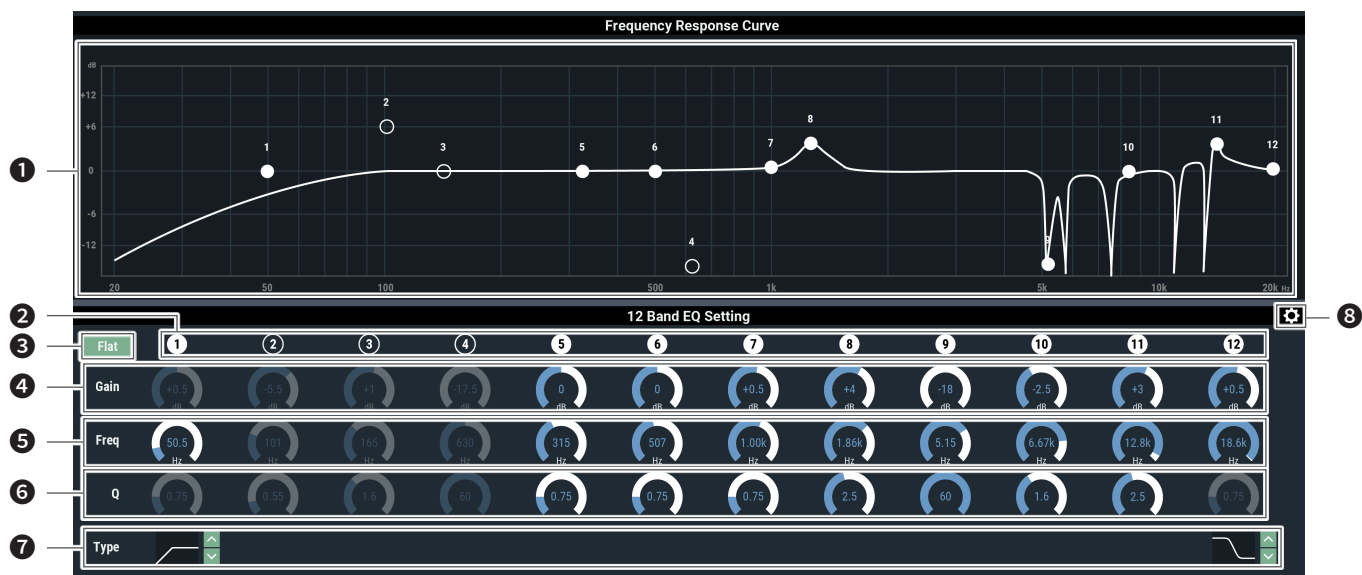
⑤ 検出された周波数をリセットします。リセットすると、新たに検出が始まります(静的状態にあるバンドの周波数はリセットされません)。

⑥ 静的状態になっているバンドを、12バンドEQのバンドへコピーします。12バンドEQ側のEQがOFFになっているバンドをコピー対象とします。

• 「Detection」(③)および「Response」(④)の設定を切り替えると、動的状態のEQの周波数がリセットされます。

音声出力の詳細設定を行う

設定画面の見かた (EQ)



- ① EQの周波数特性波形を表示・編集します。バンドごとのポインターが、周波数とゲインの位置を表します。
・ポインターをドラッグして周波数とゲインを編集することができます。

- ② 各バンドのON / OFFの表示、切り替えをします。
ON / OFFの状態は以下の通りです。

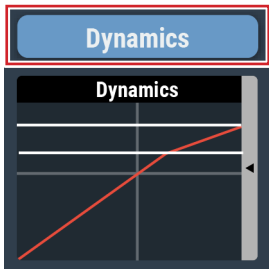
①	ONを表します。
②	OFFを表します。

- ③ すべてのバンドにおいて、周波数はそのまま、ゲインを0にします。
④ 各バンドのゲインを調整します。
⑤ 各バンドの周波数を調整します。
⑥ 各バンドのQ値を調整します。
⑦ フィルターの種類を変更します(バンド1、バンド12のみ)。
⑧ パラメーターのリセット、EQプリセットの保存・呼び出しを行います。

音声出力の詳細設定を行う

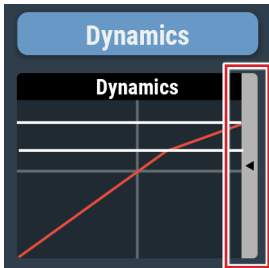
ダイナミクス機能のON / OFFを設定する

1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。
 - ・ クリックするたびに、ON(青色) / OFF(色なし)が切り替わります。

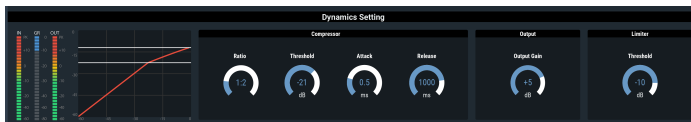


ダイナミクス機能を調整する

1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。
 - ・ 設定画面が表示されます。

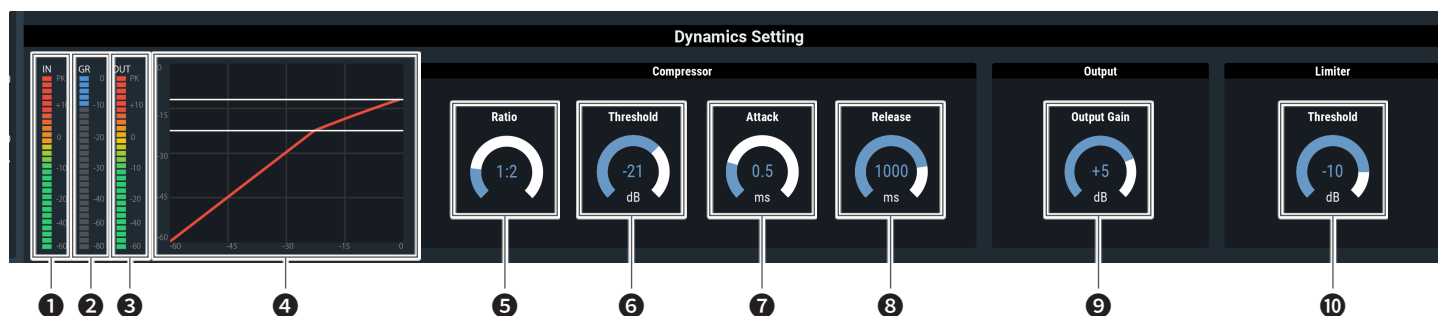


2. 各項目を設定します。

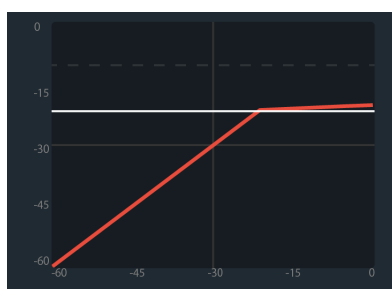
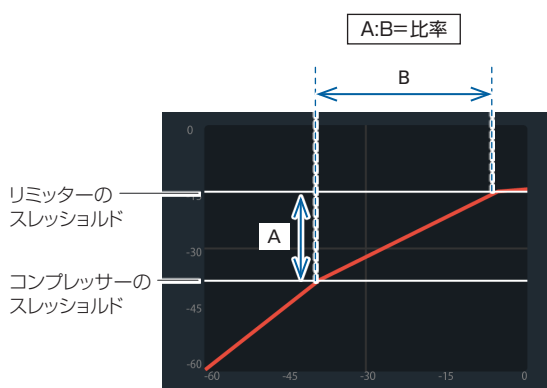


音声出力の詳細設定を行う

設定画面の見かた(DYN)



- ① ダイナミクスに入力される音声のレベルを表します。
- ② コンプレッサーによる、音声のゲイン抑制の程度を表します。
- ③ ダイナミクスから出力される音声のレベルを表します。
- ④ ダイナミクスの特性を表します。
- ⑤ コンプレッサーの比率を設定します。
- ⑥ コンプレッサーのスレッシュホールドを設定します。
- ⑦ コンプレッサーのアタックタイムを設定します。
- ⑧ コンプレッサーのリリースタイムを設定します。
- ⑨ ダイナミクスの出力ゲインを設定します。
- ⑩ リミッターのスレッシュホールドを設定します。



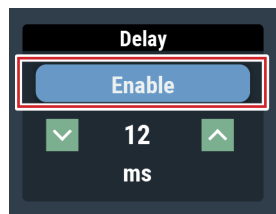
リミッターのスレッシュホールドがコンプレッサーのスレッシュホールドを下回るとき、コンプレッサーのスレッシュホールドが消え、リミッターのスレッシュホールドのみ表示されます。

音声出力の詳細設定を行う

ディレイ機能のON / OFFを設定する

各チャンネルの出力をディレイ(遅延)させるかを設定します。

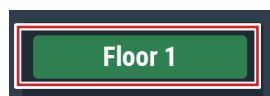
1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。
 - クリックするたびに、ON(青色) / OFF(色なし)が切り替わります。



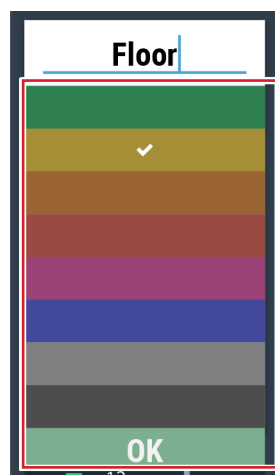
チャンネル名と色を設定する

各チャンネルのチャンネル名と任意の色を設定します。

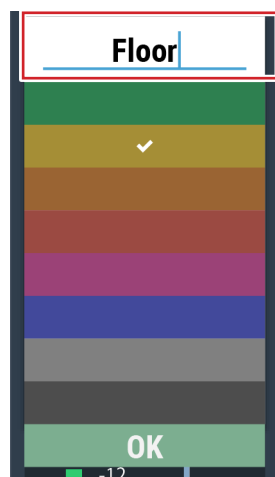
1. 下記画面の赤枠部分をクリックします。



2. 任意の色を選択します。





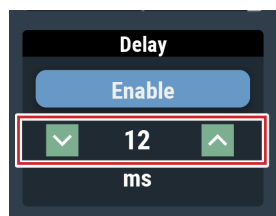
3. テキスト部分をクリックして、任意のチャンネル名を入力します。



4. 「OK」をクリックします。

ディレイ機能の遅延時間を設定する

1. 遅延させる時間を設定します。
 -   をクリックして時間を調整できます。また、時間をクリックして直接入力することもできます。

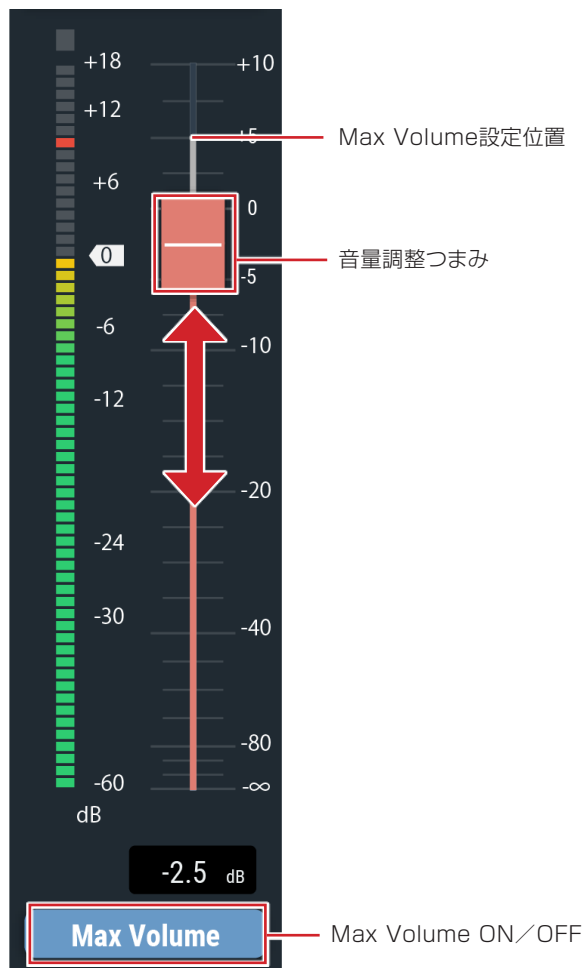


音声出力の詳細設定を行う

出力レベルを調整する

チャンネルごとに、MIC / LINE の出力レベルを設定します。

1. 音量調整つまみをクリックし、上下に移動させて出力レベルを調整します。



Max Volume の ON / OFF を設定する

チャンネルごとに、Max Volume 値を決め、その ON / OFF を設定します。

1. 「Max Volume」をクリックします。
 - クリックするたびに、ON(青色) / OFF(色なし)が切り替わります。
 - ONにした時の位置で、フェーダーの上限が設定されます。設定された位置より上の範囲はグレーアウトします。位置を変更する場合は、OFFにしてから、再度ONに設定します。

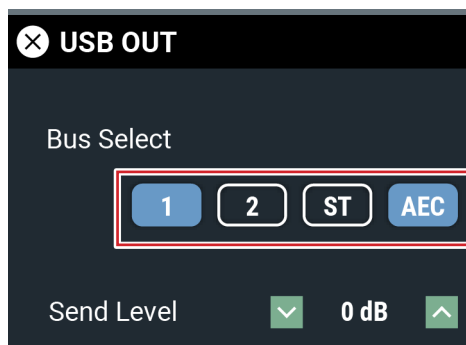
USB 出力を設定する

USB 出力のバス選択と、送信レベルの設定を行います。

1. 「USB OUT」をクリックします。

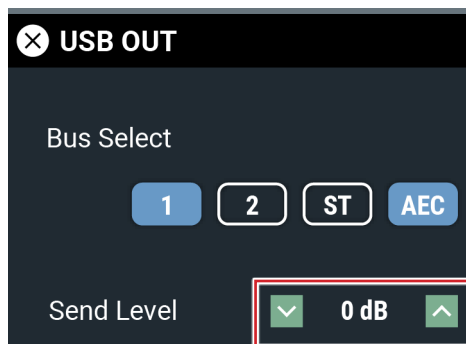


2. USB 出力時のバスを選択します。
 - 「1」、「2」、「AEC」から2つまで選択できます。
 - 「ST」を選択すると、ほかは選択できません。



3. USB 出力時のレベルを選択します。

- 上下の矢印ボタンをクリックしてレベルを調整できます。また、数値をクリックして直接入力することもできます。



システムの詳細設定を行う(設定 & 保守)

システム全体に関わる詳細設定や、メンテナンス時や障害発生時に使用するユーティリティが準備されています。

設定 & 保守画面について

基本操作

1. 画面右上のアイコン(⚙️)をクリックします。



① 設定項目メニュー

② ログアウトアイコン

③ 画面切り替えアイコン
音声設定画面を表示します。

④ 適用ボタン
各設定の変更を反映します。

2. 設定項目から設定したい項目を選択します。



3. 必要に応じて設定を行い、「適用」をクリックします。



システムの詳細設定を行う(設定 & 保守)

一般(システム設定)



機器名称

機器名称	ウェブリモートからコントロールしている本製品の 名前を設定します。
ヘッダーカラー	ウェブリモートの画面上部(ヘッダー)の色を設定 します。

設定を行ったあと、「適用」をクリックすると、設定が完了します。

Audio-Technica LINK モード

Audio-Technica LINK時の動作モードを設定します(P.55)。

1. 「親機」／「子機」を選択します。
2. 「適用」をクリックします。
 - ・ 設定が完了します。

システムの詳細設定を行う(設定 & 保守)

ネットワーク(システム設定)



IP設定

IPアドレスの取得方法や各値を設定します。

1. 「IPコンフィグ・モード」から「オート」／「固定」を選択します。

オート	DHCPサーバーなどが自動でIPアドレスを割り当てます。
固定	固定IPアドレスを指定します。 「固定」を選択すると、「IPアドレス」、「サブネット・マスク」、「ゲートウェイ・アドレス」が設定できるようになります。指定したいアドレスを入力してください。 デフォルト値は「192.168.33.102」です。

2. 「適用」をクリックします。

- ・設定が完了します。

自動検出許可

“Locate”からの自動検出の設定をします。

1. スイッチをクリックします。

- ・クリックするたびに、ON(青色)／OFF(色なし)が切り替わります。
- ・ONに設定すると、“Locate”から本製品が検出可能になります。

2. 「適用」をクリックします。

- ・設定が完了します。

IPコントロール設定

IPコントロールに関する設定をします。

1. 各項目を設定します。

ポート番号	IPコントロールポートの番号を表示します。
通知	IPコントロール時にデバイスからの通知を受け取る設定をします。
音量通知*	IPコントロール時にデバイスから音声レベルの通知を受け取る設定をします。
マルチキャスト・アドレス*	マルチキャストのアドレスを設定します。
マルチキャスト・ポート番号*	マルチキャストのポート番号を設定します。

*「通知」がON(青色)のときのみ設定できます。

2. 「適用」をクリックします。

- ・設定が完了します。

NTP設定

NTP(ネットワークタイムプロトコル)の設定をします。

1. 各項目を設定します。

作動	NTP(ネットワークタイムプロトコル)の設定を有効にするかを設定します。
サーバー・アドレス	NTPのサーバーアドレスを設定します。
ポート番号	NTPのポート番号を設定します。
タイムゾーン	UTC(協定世界時)との時差を設定します。
サマータイム	サマータイムの入/切を設定します。
開始日時	サマータイム開始の月日・時刻を設定します。
終了日時	サマータイム終了の月日・時刻を設定します。

2. 「適用」をクリックします。

- ・設定が完了します。

システムの詳細設定を行う(設定 & 保守)

アクセス権限(システム設定)



ログイン・パスワード

「管理者」でログインする際に、パスワードを必要とするかを設定します。

1. **スイッチをクリックしてON / OFFを設定します。**
 - ・クリックするたびに、ON(青色) / OFF(色なし)が切り替わります。
2. **設定したいパスワードを入力します。**
 - ・4~8文字の英数字を使用して入力してください。
3. **「適用」をクリックします。**
 - ・設定が完了します。

デバイスアクセス許可

「操作者」としてアクセスできる機器を制限するかを設定します。

1. **スイッチをクリックしてONに設定します。**
 - ・クリックするたびに、ON(青色) / OFF(色なし)が切り替わります。
2. **アクセスできるように設定したい機器のIPアドレスを入力します。**
 - ・最大5台まで登録することができます。
3. **「適用」をクリックします。**
 - ・設定が完了します。
 - ・登録した機器以外は、「操作者」としてアクセスできなくなります。

システムの詳細設定を行う(設定 & 保守)

オーディオ(システム設定)



オーディオシステム

音声に関するシステム設定の確認・変更をします。

1. 各項目を設定します。

ゲイン単位	ゲイン調整時の単位表示を設定します。
ディレイ単位	遅延時間設定時の単位表示を設定します。
出力モード切替	出力端子の切り替えをします。
Virtual Micモード	バーチャルマイクを使用するかを設定します。

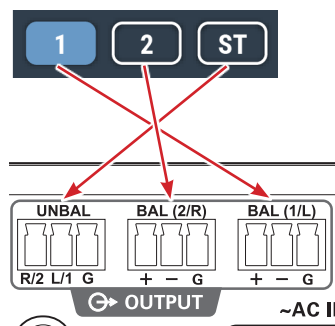
2. 「適用」をクリックします。

- ・設定が完了します。

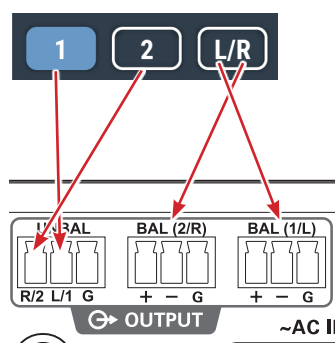
「出力モード切替」について

出力バスにアサインされた各チャンネルは以下のように出力されます。

- ・「出力モード切替」がOFFの場合



- ・「出力モード切替」がONの場合



- ・「出力モード切替」をONにすると、音声出力画面のOUTPUT ST表記がOUTPUT L/Rに変わります。

システムの詳細設定を行う(設定 & 保守)

フロントパネル(システム設定)



レベル

本製品のフロントパネルで、各チャンネルの入力レベル・出力レベルを調整できるようにするかを設定します。

1. 各チャンネルにチェックマークを付けます／外します。
 - ・チェックが入っていると、レベル調整が可能となります。
2. 「適用」をクリックします。
 - ・設定が完了します。

フロントパネル制限

本製品のフロントパネルでの操作制限について設定します。

1. 各項目を設定します。

プリセット呼び出し可能	本製品のフロントパネルでプリセットの呼び出しができるようにするかを設定します。
詳細設定可能	本製品のフロントパネルでアドバンスモードへアクセスできるようにするかを設定します。

2. 「適用」をクリックします。
 - ・設定が完了します。

LEDディーマー

本製品のフロントパネルのLEDを、ディーマー点灯(輝度を落として点灯)させるかを設定します。

1. スイッチをクリックしてON / OFFを設定します。
 - ・クリックするたびに、ON(青色) / OFF(色なし)が切り替わります。
2. 「適用」をクリックします。
 - ・設定が完了します。

システムの詳細設定を行う(設定 & 保守)

ユーティリティ(システム設定)



ファームウェアアップデート

本製品のファームウェアをアップデートします。

1. 画面に表示されている「シリアル番号」、「機器名称」、「ファームウェア Ver」で、本製品がアップデート対象であるかを確認します。
2. 「開く」をクリックします。
 - ・ファイル選択画面が表示されます。
3. ファイル選択画面からバージョンアップファイルを選択して、開きます。
4. 「アップデート」をクリックします。
 - ・アップデートが開始されます。アップデートが完了すると、完了画面が表示されます。
5. 本製品の電源を切って再起動します。
 - ・再起動が完了したあと、ウェブブラウザでページを再読み込みしてください。

言語パック・インストール

言語パックをインストールして、ウェブリモートで表示される言語を切り替えることができますようにします。

1. 「開く」をクリックします。
 - ・ファイル選択画面が表示されます。
2. ファイル選択画面からインストールしたい言語ファイルを選択して、開きます。
3. 「インストール」をクリックします。
 - ・インストールが開始されます。インストールが完了すると、完了画面が表示され、自動的にログアウトします。

全設定を初期化

本製品を工場出荷時の設定に戻します(ファームウェアは現在のバージョンのままです)。

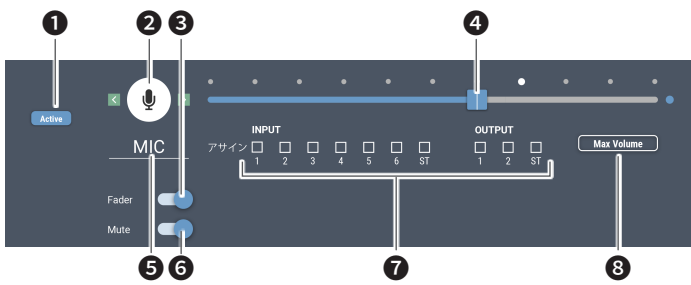
1. 「リセット」をクリックします。
 - ・確認画面が表示されます。
2. 確認画面を確認し、「はい」をクリックします。
 - ・初期化が完了すると、完了画面が表示されます。本製品の電源を切ってください。

システムの詳細設定を行う(設定 & 保守)

操作者用ページ(操作者権限)



フェーダー設定画面の見かた



- 1 操作者画面で表示するかを設定します。
- 2 操作者画面で表示するアイコンを選択します。
- 3 操作者画面でフェーダーを表示するかを選択します。
- 4 音量を調整します。
- 5 任意の名前を設定します。
- 6 操作者画面でアイコンをクリックしたとき、ミュートするかを選択します。
- 7 各フェーダーにどのチャンネルの音声を割り当てるかを設定します。
- 8 フェーダーの最大値を設定します。

フェーダー設定

操作者画面で操作する内容の確認・変更をします。

1. 各項目を設定します。
 - ・「フェーダー設定画面の見かた」を参照して、設定してください。
2. 「適用」をクリックします。
 - ・設定が完了します。

操作者用ページ制限

操作者画面で操作する内容の制限について設定します。

1. 各項目を設定します。

プリセット呼び出し	プリセットの呼び出しを行うかを設定します。
プリセット番号*	呼び出せるプリセットの数を設定します。
フェーダーポジション保存	最大8系統のフェーダーの位置をレジュームするかを設定します。
ログアウトボタン	ログアウトボタンを画面に表示するかを設定します。
アレイマイク切替	アレイマイクのON/OFFを切り替えることができるかを設定します。

*「プリセット呼び出し」をONにした場合に設定できます。

2. 「適用」をクリックします。
 - ・設定が完了します。

システムの詳細設定を行う(設定 & 保守)

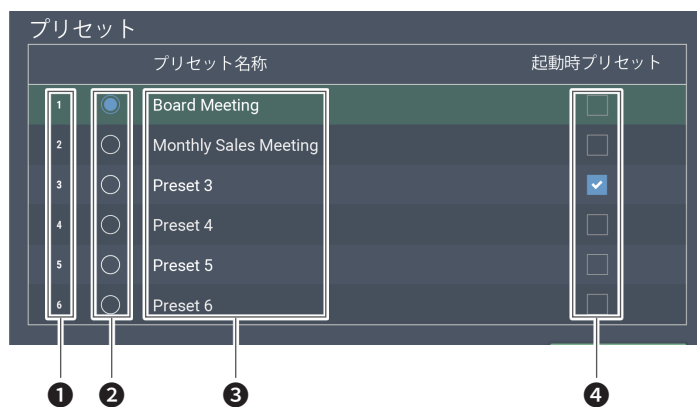
プリセット(プリセット)



プリセット

本製品に登録されているプリセットに関する設定の確認・変更、またプリセットファイルの読み込み・書き出しをします。

プリセット画面の見かた



- ① **プリセット番号**
- ② **ラジオボタン**
プリセットを選択します。
- ③ **プリセット名称**
任意の名前を設定します。
- ④ **起動時プリセット**
本製品を起動したときに、チェックしたプリセットが常に呼び出されます。

プリセットを書き出す

1. 変更したいプリセット番号のラジオボタンをクリックします。
 - ・クリックすると、選択状態(青色)になります。
2. 「エクスポート」をクリックします。
3. 保存先・ファイル名を設定して書き出します。

プリセットを読み込む

外部で作成したプリセットを読み込むことができます。

1. 読み込み先の、プリセット番号のラジオボタンをクリックします。
 - ・クリックすると、選択状態(青色)になります。
2. 「開く」をクリックし、外部ファイルを選択します。
3. 「インポート」をクリックします。
 - ・プリセットが読み込まれます。

システムの詳細設定を行う(設定 & 保守)

4 Band EQライブラリー(プリセット)



4 Band EQライブラリー

音声入力に適用する4バンドEQのパターンをプリセットとして読み込み・書き出しすることができます。

EQプリセット	全バンドのEQパターンが保存された設定のことを表します。
ライブラリー	すべてのプリセットをまとめたグループのことを表します。

プリセット名を変更する

1. 変更したいプリセット名をクリックします。
2. プリセット名を入力します。

プリセット／ライブラリーを書き出す

1. 変更したいプリセット番号のラジオボタンをクリックします。
 - ・クリックすると、選択状態(青色)になります。
 - ・ライブラリーを書き出したい場合は、プリセットを選択する必要はありません。
2. 「EQプリセット」／「ライブラリー」の項目にある「エクスポート」をクリックします。
3. 保存先・ファイル名を設定して書き出します。

プリセット／ライブラリーを読み込む

1. 読み込み先の、プリセット番号のラジオボタンをクリックします。
 - ・クリックすると、選択状態(青色)になります。
 - ・ライブラリーを読み込みたい場合は、プリセットを選択する必要はありません。
2. 「EQプリセット」／「ライブラリー」の項目にある「開く」をクリックし、外部ファイルを選択します。
3. 「EQプリセット」／「ライブラリー」の項目にある「インポート」をクリックします。
 - ・プリセット／ライブラリーが読み込まれます。

システムの詳細設定を行う(設定 & 保守)

12 Band EQ ライブラリー(プリセット)



12 Band EQ ライブラリー

音声出力に適用する12バンドEQのパターンをプリセットとして読み込み・書き出しすることができます。

EQプリセット	全バンドのEQパターンが保存された設定のことを表します。
ライブラリー	すべてのプリセットをまとめたグループのことを表します。

プリセット名を変更する

1. 変更したいプリセット名をクリックします。
2. プリセット名を入力します。

プリセット/ライブラリーを書き出す

1. 変更したいプリセット番号のラジオボタンをクリックします。
 - ・クリックすると、選択状態(青色)になります。
 - ・ライブラリーを書き出したい場合は、プリセットを選択する必要はありません。
2. 「EQプリセット」/「ライブラリー」の項目にある「エクスポート」をクリックします。
3. 保存先・ファイル名を設定して書き出します。

プリセット/ライブラリーを読み込む

1. 読み込み先の、プリセット番号のラジオボタンをクリックします。
 - ・クリックすると、選択状態(青色)になります。
 - ・ライブラリーを読み込みたい場合は、プリセットを選択する必要はありません。
2. 「EQプリセット」/「ライブラリー」の項目にある「開く」をクリックし、外部ファイルを選択します。
3. 「EQプリセット」/「ライブラリー」の項目にある「インポート」をクリックします。
 - ・プリセット/ライブラリーが読み込まれます。

システムの詳細設定を行う(設定 & 保守)

ログ設定(ログ設定)



ログ設定

ログメッセージに関する設定とログファイルのダウンロードをします。

作動	ログメッセージを保存するか設定します。
出力先	ログメッセージを内部メモリに書き出すか、または Syslog サーバーに転送するかを設定します。
ログ・ファイル	「ダウンロード」をクリックすると、内部メモリに記録されたログファイルをダウンロードすることができます。

設定を行ったあと、「適用」をクリックすると、設定が完了します。

- Syslogとは、IP ネットワーク上でログメッセージを転送するための標準規格です。コンピューターシステムの管理やセキュリティ監視を目的として使用されています。

システムの詳細設定を行う(設定 & 保守)

システム情報(システム情報)



システム情報

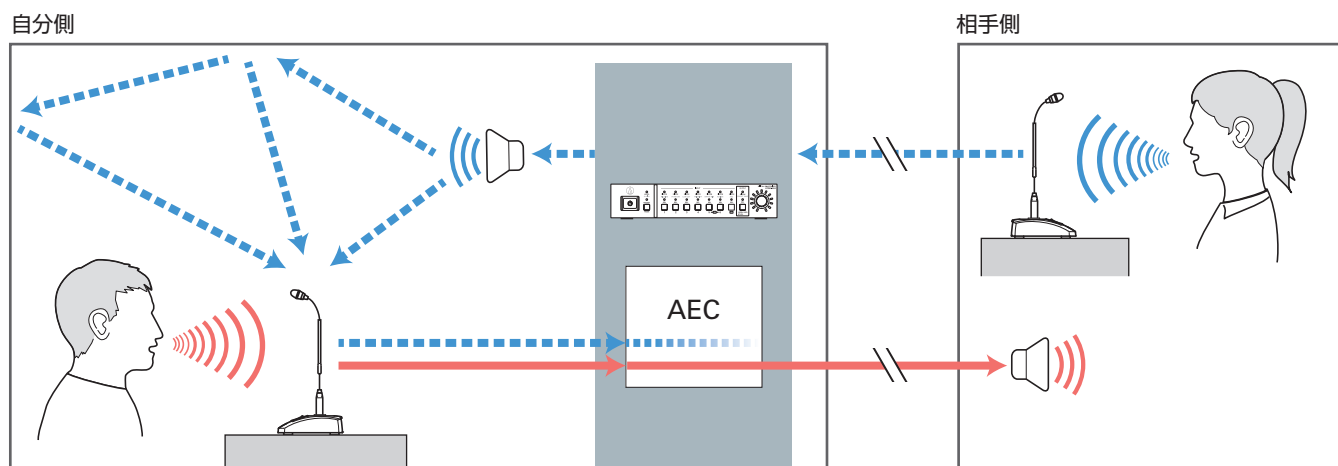
各種ネットワーク設定、本製品のシリアル番号やファームウェアバージョンなど、システムに関する情報を表示します。

主な機能について

AEC(アコースティックエコーキャンセラー)

アコースティックエコーは、電話会議など離れた拠点間で会議を行う場合、スピーカーから出力された音声をマイクロホンで拾うことにより発生する現象です。相手側からの音声は、スピーカーで拡声されますが、その音声は部屋の天井や壁、床などで反射し、自分側の音声とともにマイクロホンに拾われて相手側へ戻ります。これにより、相手側では自身の声が遅れて聞こえてくるので、耳障りで喋りにくくなります。

アコースティックエコーキャンセラーは、相手側の信号をリファレンス信号として、自分側から送られる音声信号から相手側のエコー成分のみ除去します。これにより、エコー成分のないクリアな音声を相手側へ届けることができます。



主な機能について

AECを設定する

1. 「AEC」をクリックします。



2. 「Mode」から「AEC」を選択します。



3. 「AEC Reference」からリファレンス信号(エコー除去を行いたい信号)を選択します。

- 基本的には、相手側の信号をリファレンス信号にします。



4. 使用するマイク(各チャンネル)のAECをONに設定します。



5. 相手側に戻す信号(出カバス)を「Output Bus」から選択します。



6. 「AEC Calibration」(音響測定)をクリックします。

- 確認画面が表示されます。



主な機能について

7. 「Start」をクリックします。

- 残響測定が開始されます。
- 「Test」をクリックすると、テスト音声を再生して確認することができます。もう1度クリックすると、テスト音声が停止します。
- 一定時間何も操作を行わないと、エラー画面が表示されます。「OK」を押すと元の画面に戻ります。再度操作をしてみてください。

8. 残響設定を行ったあと、ERLメーターが振れることを確認します。

- 以降の手順は必要に応じて設定してください。



9. ERLメーターが10以上になるように「Reference Level」を調整します。



10. 必要に応じて「NLP」をONに設定します。

- エコーキャンセル効果が向上します。



AECの適応フィルター設定を保存する

1. 「適用」をクリックします。

- AEC適応フィルター設定を保存します。
- プリセット保存時にAEC適応フィルターの状態も合わせて保存したい場合は、「適用」をクリックしてからプリセット保存をしてください。



主な機能について

スマートミキサー

スマートミキサーは、不特定多数の参加者が同時に発言するような会議などで、ハウリングを発生させず余計なノイズを拾わないよう自動的にマイクチャンネルの音声入出力を調整する機能です。特にパネルディスカッションのような発言の順番が決められていない会議に有効で、オペレーターの煩雑なフェーダー操作を自動化することで、効率的で安定した運用が可能となります。スマートミキサーには、「ゲートモード」と「ゲインシェアリングモード」の2種類があります。

ゲートモードのスマートミキサー

マイクに音声入力があると、そのチャンネルは自動的にオープンとなります。複数のマイクに音声入力があった場合、オープンになったチャンネルの音声はすべて加算されます。単純に加算していくとハウリングマージンの低下など音声品質に問題が生じるため、ゲートモードのスマートミキサーでは、オープンになっているマイクチャンネル数に応じて、加算された音声を減衰します。

ゲインシェアリングモードのスマートミキサー

各マイクチャンネルの音声入力レベルとオープンになっているマイクチャンネルの音声入力レベルの合算値を比較し、その比率に応じて、各チャンネルでゲインを分け合います。これにより、マイク1本からの音声入力でも複数からでも、トータルのゲインが常にマイク1本分(一定)となります。

ゲートモードのスマートミキサーを設定する

設定はすべてウェブリモートで行います。

1. 「Smart Mix」をクリックします。



2. 「Mode」から「Gate」を選択します。



3. スマートミキサーを使用したいチャンネルの「Enable」をクリックします。
 - ・ クリックすると、ON(紫色)になります。



主な機能について

4. 必要に応じてチャンネルごとの「Priority」、「Can Cut」、「Off Attenuation」を設定します。

Priority (優先権)	ONにすると、OFFのチャンネルに優先して、マイク入力チャンネルのゲートが開きます。 <ul style="list-style-type: none"> 優先モードの設定によりゲートが開かないこともあります。
Can Cut (オフ可能)	「Priority」がONのチャンネルで本設定をONにすると、このマイク入力チャンネルのゲートが開いたとき、「Priority」がOFFのチャンネルは、ゲートが閉じます。
Off Attenuation (オフアッテネーション)	マイク入力チャンネルのゲートが閉じているときの減衰量を設定します。



5. 出力バスに信号を割り当てます。

ON (紫色)	スマートミキサーがONのとき、スマートミキサー後の音声信号が出力されます。
ON (青色)	出力バスにアサインされます。スマートミキサーがONのときでも、スマートミキサーをスルーした音声信号が出力されます。
OFF	いずれの出力バスにもアサインされません。



6. 「Last Mic On」、「Hold Time」、「NOMA」、「Num of Open Mics」、「Fixed Threshold」、「Threshold Level」の設定を行います。

Last Mic On (ラストマイクオン)	ONにすると、最後に開いたマイク入力チャンネルのゲートをそのまま保持します。
Hold Time (ホールドタイム)	音声入力が無くなってから、マイク入力チャンネルのゲートを閉じるまでの時間を設定します。
NOMA	開いているマイク入力チャンネルのゲート数に応じて、出力を減衰する機能です。ハウリング防止のため「NOMA」はONにすることを推奨します。
Num of Open Mics (発言マイク数)	マイク入力チャンネルの、同時に開くゲート数を制限します。運用方法に応じて数値を変更してください。
Priority Mode (優先モード)	現在開いているマイク入力チャンネルのゲート数が、「Num of Open Mics」に達している場合、以下のとおりです。 モード1:「Priority」がONのチャンネルでも開くことができません。 モード2:「Priority」がONのチャンネルであれば開くことができます。
Fixed Threshold	マイク入力チャンネルのゲートが開くレベルを固定にする機能です。
Threshold Level	マイク入力チャンネルのゲートが開くレベルを設定します。



ゲインシェアリングモードのスマートミキサーを設定する

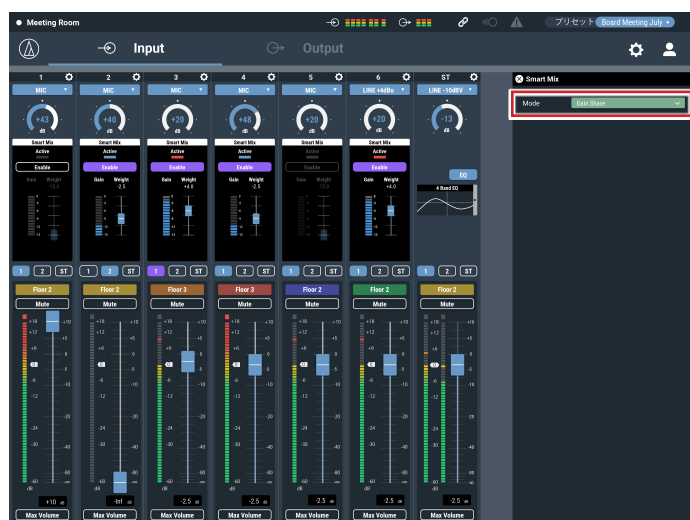
設定はすべてウェブリモートで行います。

1. 「Smart Mix」をクリックします。



主な機能について

2. 「Mode」から「Gain Share」を選択します。



5. 出力バスに信号を割り当てます。

ON (紫色)	スマートミキサーがONのとき、スマートミキサー後の音声信号が出力されます。
ON (青色)	出力バスにアサインされます。スマートミキサーがONのときでも、スマートミキサーをスルーした音声信号が出力されます。
OFF	いずれの出力バスにもアサインされません。

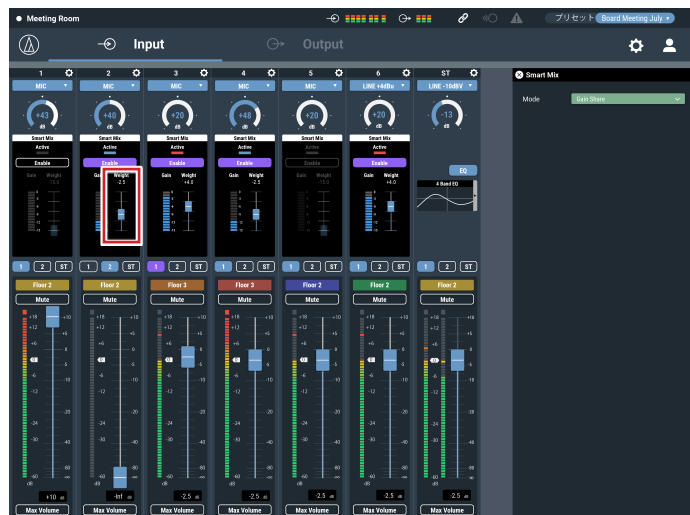
3. スマートミキサーを使用したいチャンネルの「Enable」をクリックします。
 ・ クリックすると、ON(紫色)になります。



6. 各チャンネルのゲインメーターで、入力信号によって配分されるゲイン量が変化することを確認します。

4. 必要に応じてチャンネルごとの「Weight」を設定します。

- ・ 配分されるゲインの量を調整できます。各チャンネルの暗騒音のバランスをとるときにも使用します。



主な機能について

Audio-Technica LINK

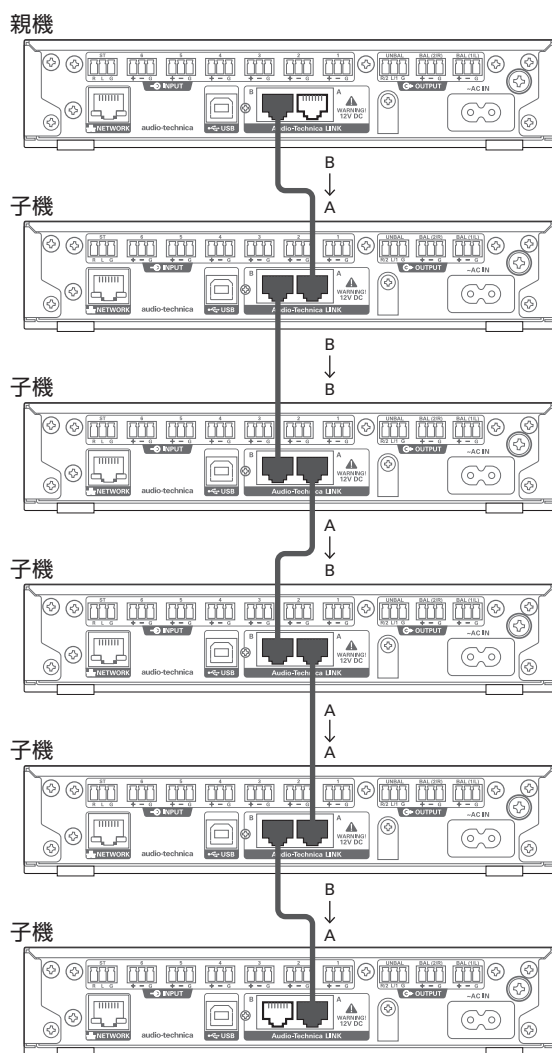
本製品は、最大6台のATDM-0604をデジチェーン接続し、システム全体で24マイク入力、12マイク/ライン入力、6アンバランスステレオ入力の音声入力に対応可能です。機器間の音声バス信号の伝送に、独自フォーマットの「Audio-Technica LINK」を採用し、低レイテンシーの高速信号伝送により、安定した制御と非圧縮音声信号の伝達を可能としています。また、イーサネット規格に準拠し、汎用的なLANケーブル(Cat5e以上、導体サイズ24AWGの径以上、シールド付きを推奨)による接続が可能のため、高い施工性を実現しています。

接続および設定方法

1. ATDM-0604(最大6台)をデジチェーン接続します。

- LINK 端子にはLINK A、LINK Bと2つの端子がありますが、区別や方向性は無いのでA→B、B→A、A→A、B→Bのどの組み合わせで接続しても問題ありません。ただし、設置後のメンテナンス性を考えると、同一システム内では、同じパターンで接続することを推奨します。
- リング接続はしないでください。接続両端のATDM-0604のLINK 端子は、必ずどちらか一方が接続されていない状態としてください。
- 接続に使用するLANケーブルはCat5e以上で導体サイズ24AWGの径以上のものを使用してください(シールド付き推奨)。

接続例



2. ウェブリモートを起動して、各ATDM-0604のAudio-Technica LINKに関する設定を行います。

主な機能について

3. 「Audio-Technica LINKモード」で、どちらか一方の端に接続されているATDM-0604を「親機」に設定します。
 - ・ 中間に接続されているATDM-0604は、「親機」に設定しないでください。接続が正しく認識されません。



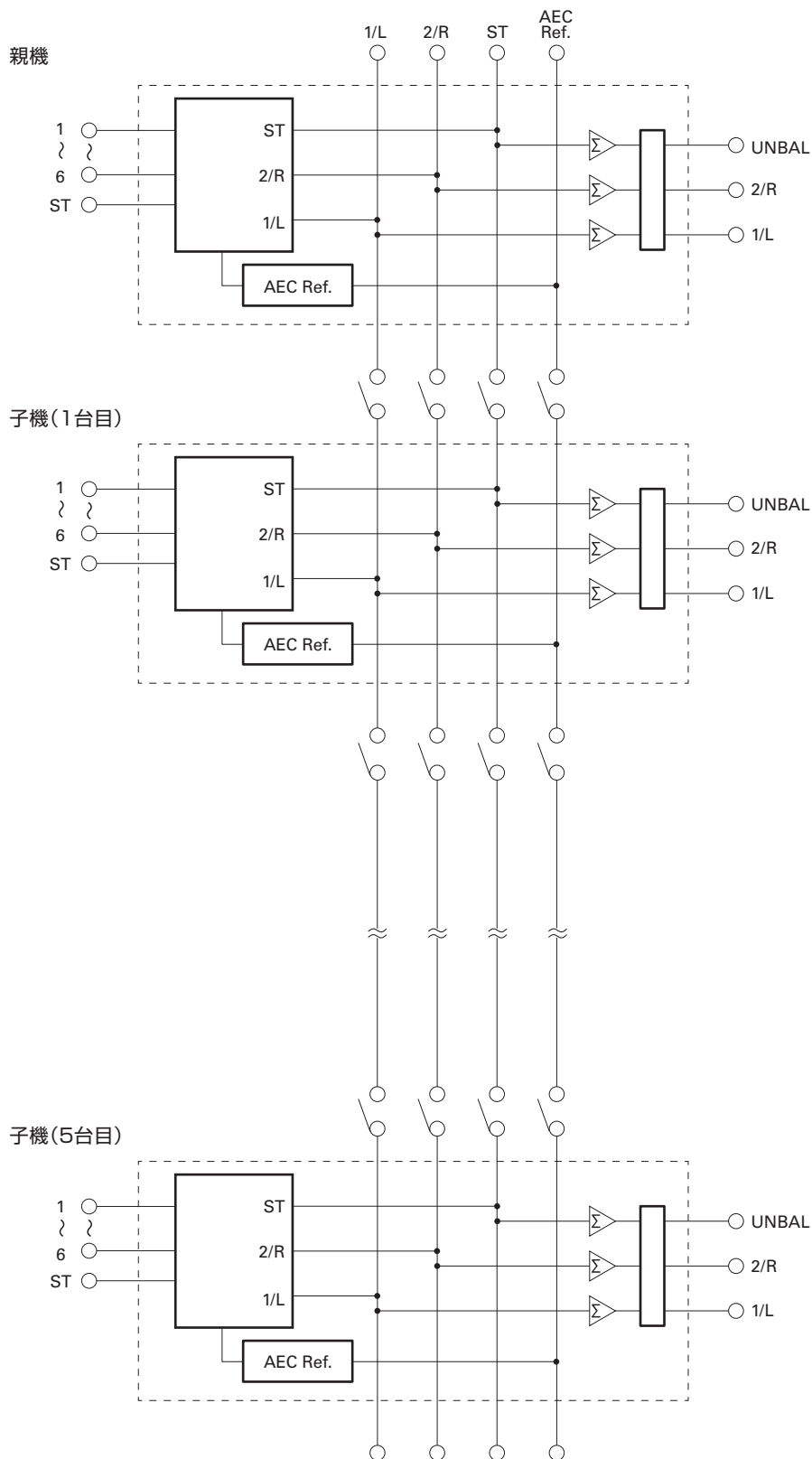
4. ほかのATDM-0604は「子機」に設定してください。
 - ・ 複数のATDM-0604に「親機」の設定を行わないでください。

主な機能について

音声バスの共有について

Audio-Technica LINK時は、音声出力バス(Output 1/L、Output 2/R、Output ST)と、AECのリファレンス信号バスが、各ATDM-0604間で共有されます。

これにより、どのATDM-0604でも24マイク入力、12マイク/ライン入力、6アンバランスステレオ入力の音声入力を出力することができます。また、AECのリファレンス信号も各機器間で共有することができます。



主な機能について

フロントパネルの操作制限について

本製品では、フロントパネルのボタンやダイヤルを使用して操作する場合に、以下の2つのモードを用意しています。

オペレーターモード:

プリセット設定の読み込みや音声レベルの調整など日々の運用を行うモード

アドバンスモード:

本製品を現場へ設置・導入し、詳細な設定を行うモード

通常、電源をONにするとオペレーターモードで起動します。そのため、誤操作による機器の設定変更などのトラブルを未然に防ぎ、システムの安全な運用を可能としています。

ここでは、ウェブリモートを使用し、フロントパネルでの操作に制限を加える手順について説明します。

- ・アドバンスモードでは、制限を加えることはできません。

1. 「管理者」を選択し、パスワードを入力したあと、「ログイン」をクリックします。

- ・操作者でログインしている場合は、ログアウトしてから再ログインしてください。



2. 画面右上のアイコン(⚙️)をクリックします。



3. 「フロントパネル」をクリックします。



4. 「レベル」の設定で、音声レベルの調整について操作制限を行います。

- ・INPUT(入力)／OUTPUT(出力)の各チャンネルにチェックが入っていると、音声レベルの調整が可能となります。
- ・操作を禁止する場合は、チェックを外してください。



5. 「フロントパネル制限」の設定で、フロントパネルでの操作制限について設定します。

- ・クリックするたびに、ON(青色)／OFF(色なし)が切り替わります。

プリセット呼び出し可能	本製品のフロントパネルでプリセットの呼び出しをできるようにするかを設定します。
詳細設定可能	本製品のフロントパネルで、オペレーターモードからアドバンスモードへ切り替えることができるようにするかを設定します。

6. 「適用」をクリックします。

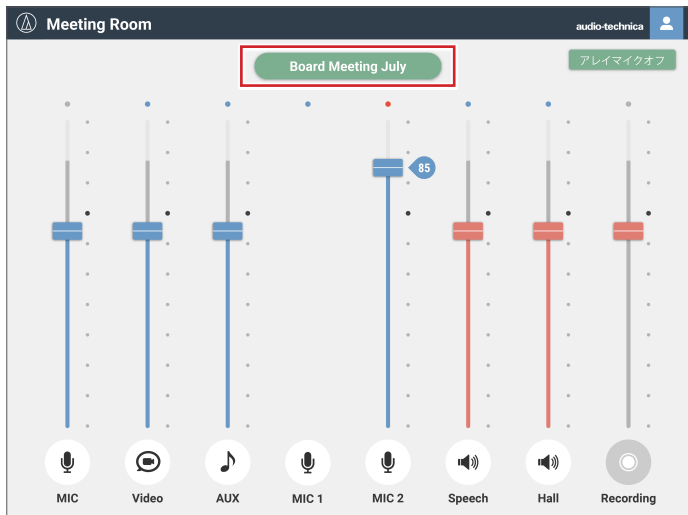
- ・設定が完了します。

主な機能について

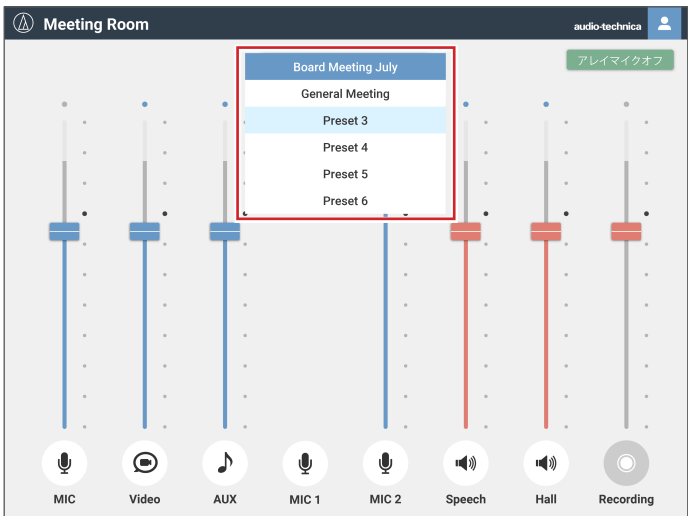
プリセットを呼び出す

操作者画面

1. 画面上部の緑色のエリアをクリックします。



2. プルダウンメニューから任意のプリセットを選択します。
・プリセット名が表示され、プリセットの内容にしたがって設定が変更されます。



管理者画面

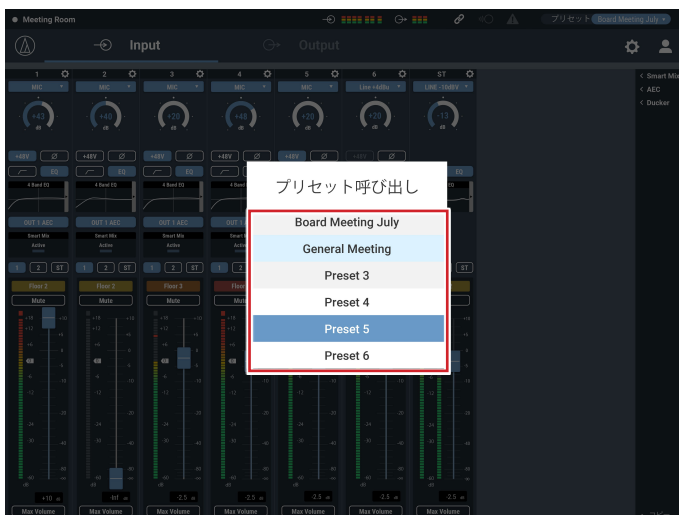
1. 画面右上部の「プリセット」をクリックします。



2. プルダウンメニューから「プリセット呼び出し」を選択します。



3. 任意のプリセットを選択します。
・プリセット名が表示され、プリセットの内容にしたがって設定が変更されます。



主な機能について

プリセットについて

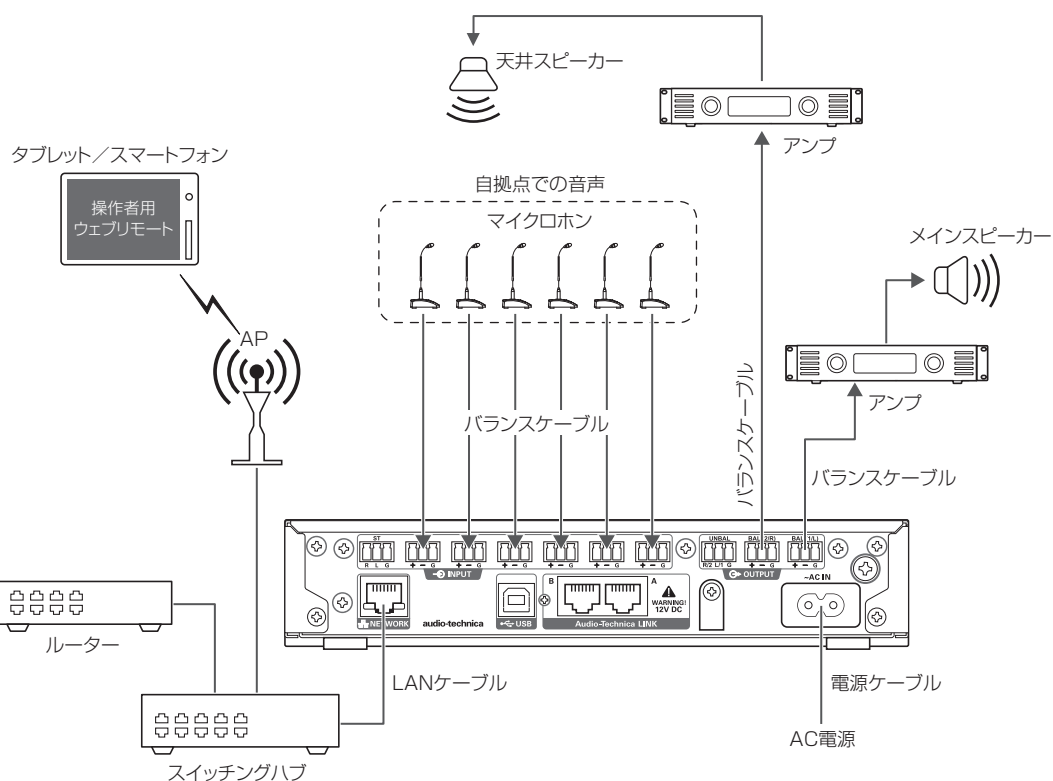
本製品には、ウェブ会議やテレビ会議などを想定したプリセットパターンがあらかじめ設定されています。

プリセット#1(音声設定の初期化)

- 本製品の音声設定を工場出荷時の状態に戻します。
- 初期化するとそれまでに設定した値はすべて消去されますので、設定内容をほかのプリセット、またはハードディスクなどに保存しておくことを推奨します。
- 管理者パスワードや、IPアドレスは初期化しません。管理者パスワードを忘れたり、IPアドレスを間違えたりして本製品にアクセスできなくなった場合は、本製品のシステムを初期化してください。システムの初期化の方法については、P.42を参照してください。

プリセット#2(自己拡声)

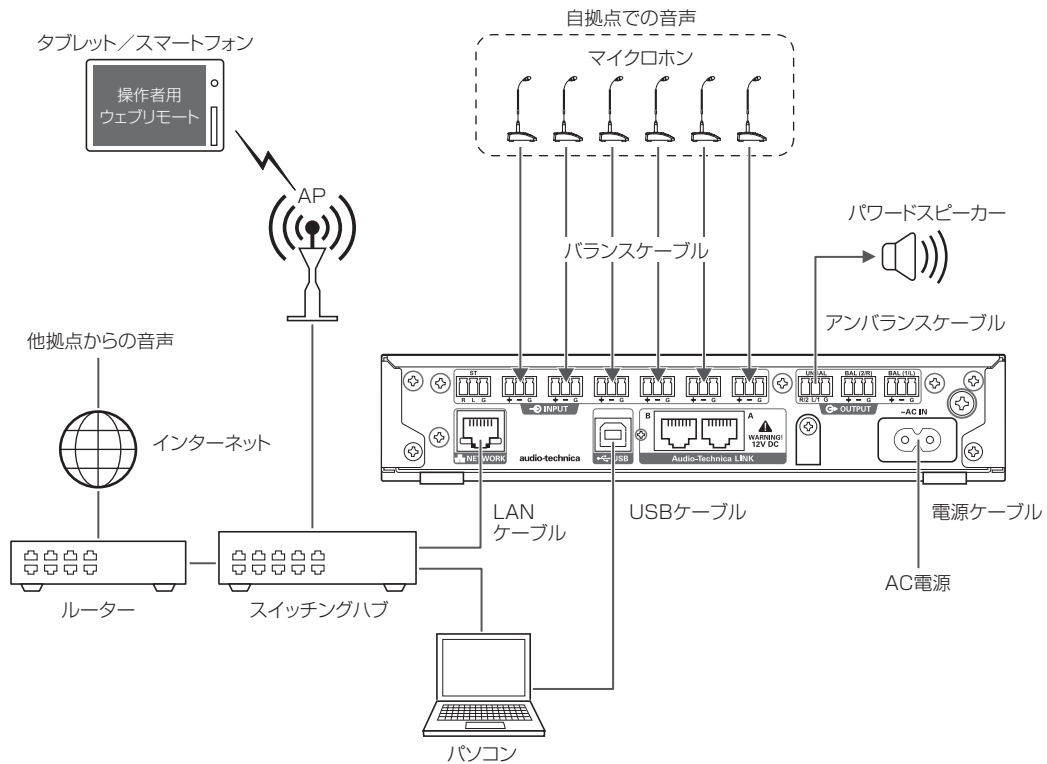
小、中規模の会議室などでの自己拡声に対応しています。また遠隔講義、遠隔セミナーなどにおいて、講師側でスピーカーによる拡声が必要な場合にも使用することができます。本製品の各出力系統にはフィードバックサプレッサーを搭載しており、ハウリングを抑制することができます。また、本製品はノイズキャンセラーを搭載しており、空調設備やプロジェクターから発するファンノイズなどを低減し、快適な集音と拡声を実現します。



主な機能について

プリセット#3(ウェブ会議)

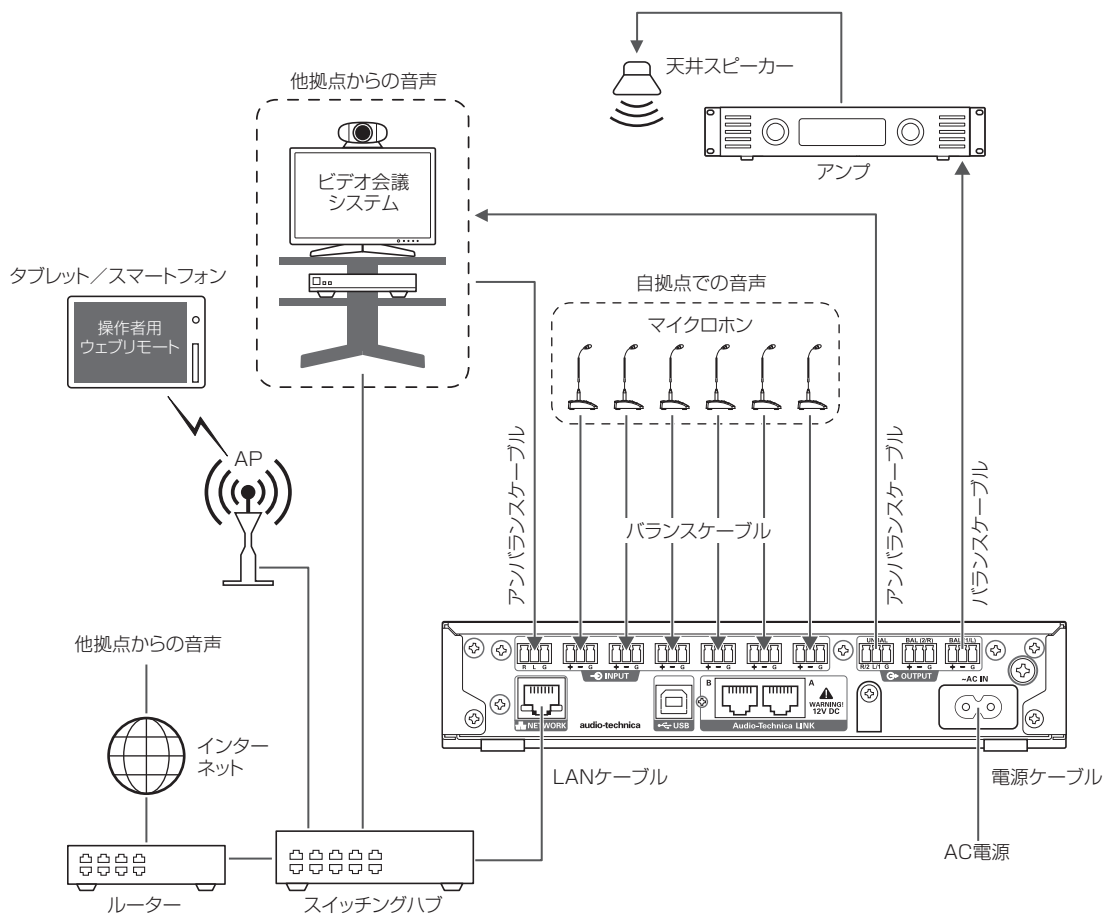
ソフトウェアコーデックを使用したウェブ会議に対応しています。本製品は、USBオーディオ・インタフェースを搭載し、インターネット回線に接続しているパソコンやタブレットがあれば、場所を選ばず会議を行うことができます。また、本製品はエコーキャンセラーを搭載しており、音声エコーや音切れの無い通話品質を提供します。



主な機能について

プリセット#4(ビデオ会議)

ハードウェアコーデックを使用したビデオ会議に対応しています。本製品のアンバランス出力はMICレベルからLINEレベルに対応しており、お使いのビデオ会議システムの入力レベルに応じて、出力レベルの設定を切り替えて使用することができます。また、本製品はエコーキャンセラーを搭載しており、音声エコーや音切れの無い通話品質を提供します。



主な機能について

設定をコピーする

チャンネルごとに設定した内容を、ほかのチャンネルにコピーすることができます。

1. コピーしたいチャンネルのアイコン(⚙️)をクリックします。



3. コピーしたいチャンネルを選択します。

- ほかのチャンネルを選択し直す場合は、チャンネルをクリックしてください。選択が解除されます。再度コピーしたいチャンネルを選択してください。

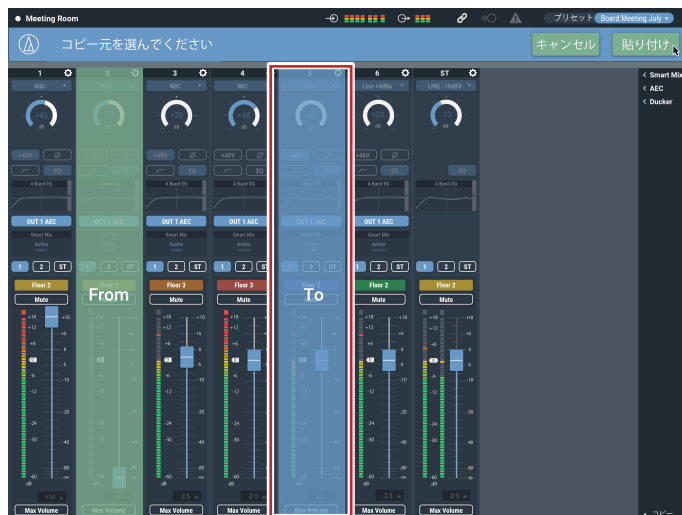


2. 「コピー」をクリックします。



4. コピー先のチャンネルを選択します。

- ほかのチャンネルを選択し直す場合は、チャンネルをクリックしてください。選択が解除されます。再度コピー先のチャンネルを選択してください。



5. 「貼り付け」をクリックします。

- コピーをキャンセルしたい場合は、「キャンセル」をクリックしてください。元の画面に戻ります。



主な機能について

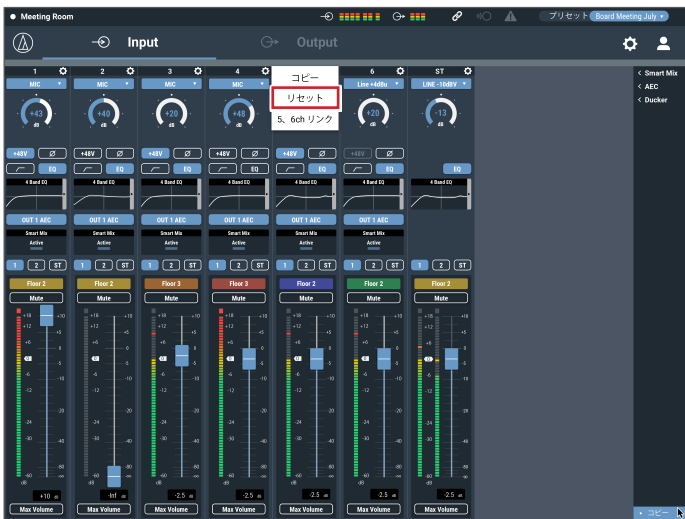
設定をリセットする

チャンネルごとに設定した内容を、リセットして初期設定に戻すことができます。

1. リセットしたいチャンネルのアイコン(⚙️)をクリックします。



2. 「リセット」をクリックします。



主な機能について

チャンネルをリンクする

チャンネルをリンクして、設定を共通にします。入力チャンネル5／入力チャンネル6のみリンクすることができます。

1. リンクしたいチャンネルのアイコン(⚙️)をクリックします。



3. 入力チャンネルがリンクされていることを確認します。

- チャンネル6がチャンネル5の設定と同じになります。
- リンクされたチャンネル6はグレーアウトし、操作できなくなります。



2. 「5、6chリンク」をクリックします。



主な機能について

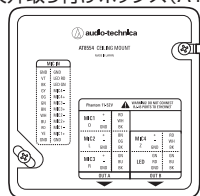
ES954 (ハンギングアレイマイクロホン) を使用する

ES954の接続と設定

1. ES954をATDM-0604に接続します。

- ES954のMIC1~4をATDM-0604の入力チャンネル1~4に接続します。

天井取り付けボックス (AT8554)



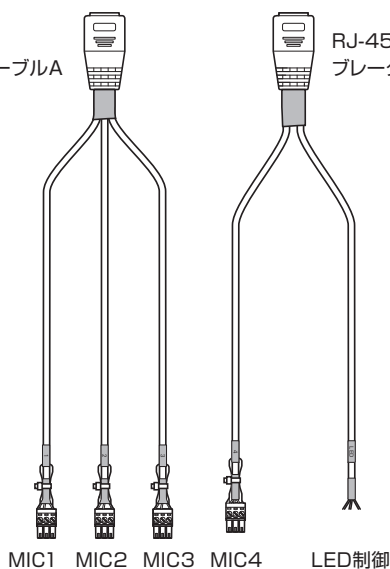
STPケーブル
(MIC1~MIC3)

STPケーブル
(MIC4/LED制御)



RJ-45
ブレイクアウトケーブルA

RJ-45
ブレイクアウトケーブルB

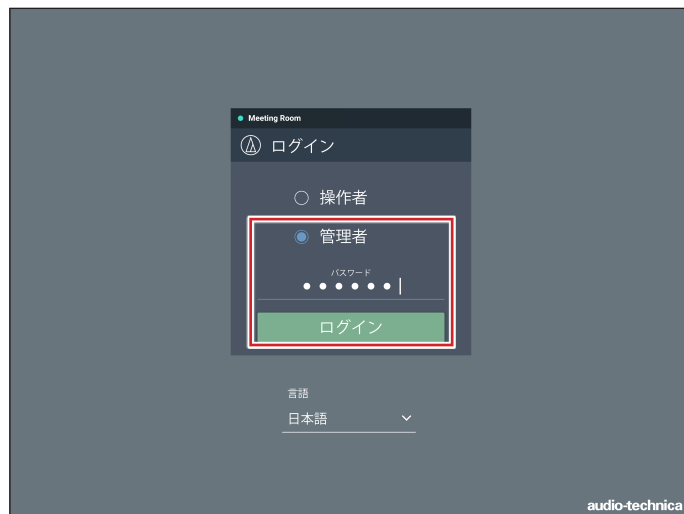


ATDM-0604



管理者用ページを設定する

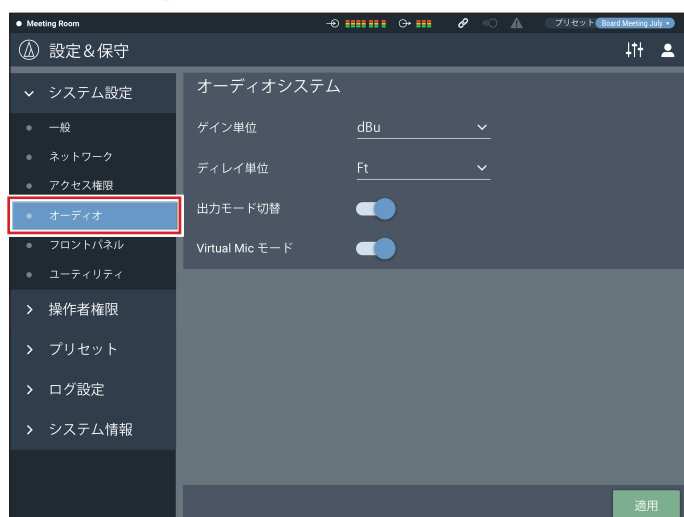
1. ウェブリモートを起動し、「管理者」でログインします。



2. 画面右上のアイコン(⚙️)をクリックします。

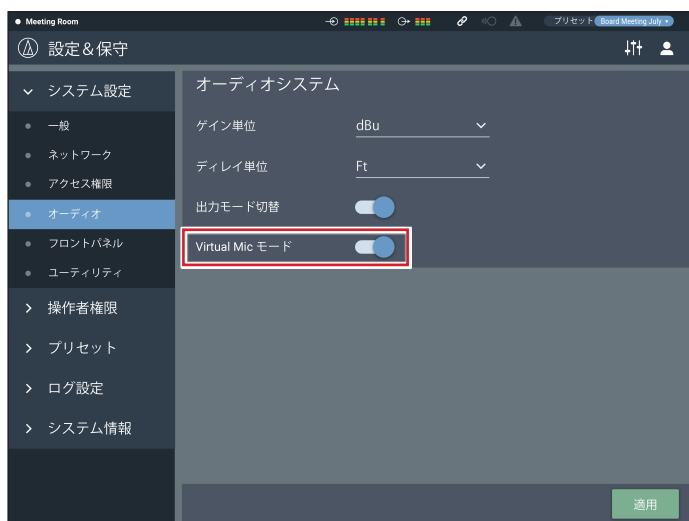


3. 「オーディオ」をクリックします。



主な機能について

4. 「Virtual Micモード」をONにします。



5. 「適用」をクリックします。

- 入力チャンネル1~4の入力タイプは、自動で「バーチャルマイク」になります。
- 入力チャンネル1~4のファントム電源は、自動で「ON」になります。

6. 画面切り替えアイコン(↑↓)をクリックします。



7. 必要に応じて「入力ゲイン」、「ローカット」、「EQ」、「Smart Mix」、「アサイン」、「ボリューム」を設定します。

- 入力タイプに「バーチャルマイク」を選択しているチャンネルの入力ゲイン値は連動します。
- 「ローカット」、「EQ」、「Smart Mix」、「ルーティング」、「ボリューム」はチャンネルごとに設定できます。



8. 「ES954」の設定を行いたいチャンネルの、バーチャルマイクボックス右側をクリックします。



主な機能について

9. チャンネルごとにバーチャルマイクの「Orientaion」、「Pattern」、「Tilt」を設定します。

Orientaion	円の周りの丸いボタンをクリックし、各バーチャルマイクの方角の向きを設定します。「Front(前方)」とはES954のaudio-technicaロゴがある方を示しています。
Pattern	マイクの指向性を「Wide(ワイド)」、「Normal(ノーマル)」、「OMNI」から選択します。
Tilt	垂直面方向の指向性を調整できます。



操作者用ページを設定する

1. ウェブリモートを起動し、「管理者」でログインします。



2. 画面右上のアイコン(⚙️)をクリックします。



3. 「操作者用ページ」をクリックします。



4. 「アレイマイク切替」をONにします。



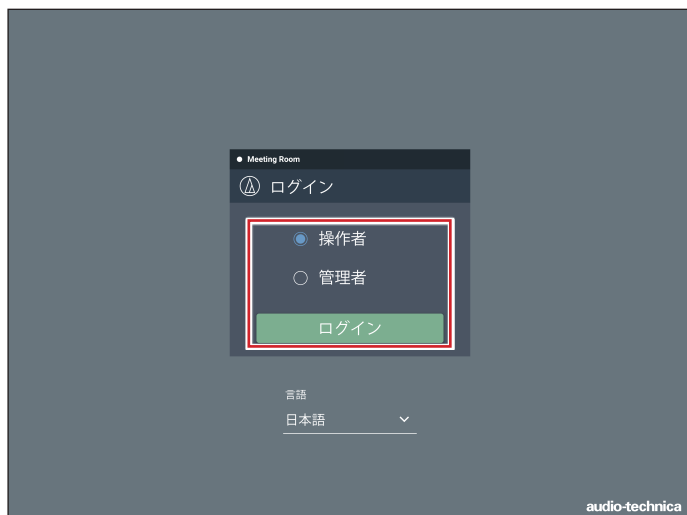
主な機能について

5. 「適用」をクリックします。

- ・ 設定が完了します。

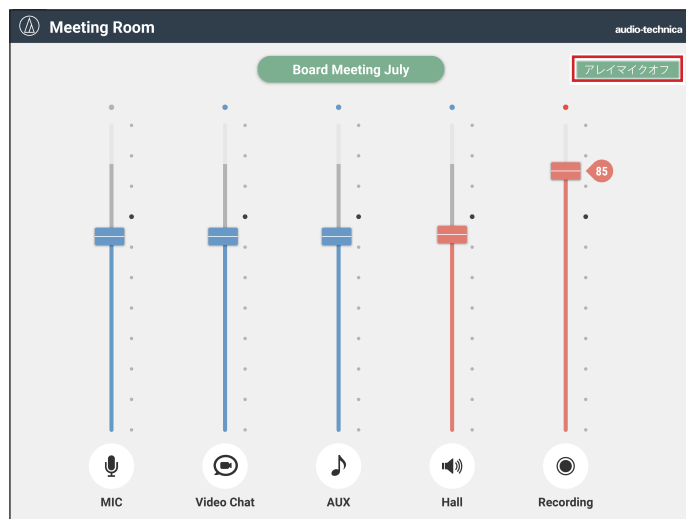


6. ログアウトし、「操作者」で再ログインします。

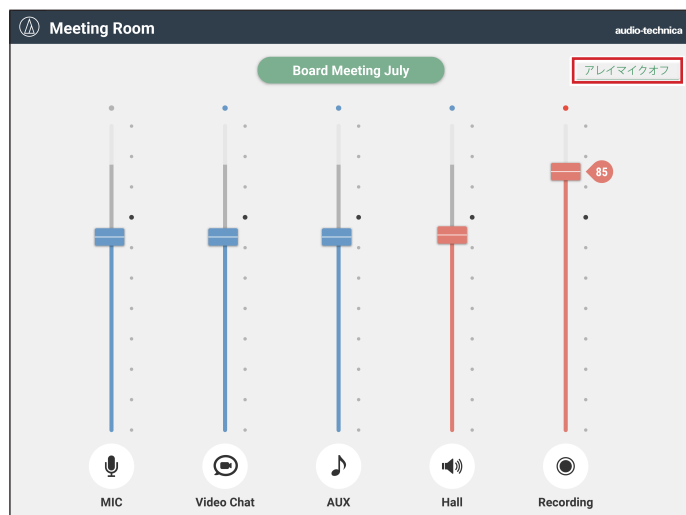


7. 「アレイマイクオフ」をクリックすることで、ES954のON / OFFを切り替えることができます。

- ・ アレイマイクON / OFFの状態は保存されません。(電源再起動後はオン状態になります。)
- ・ アレイマイクON / OFFの状態はプリセットの対象に含みません。



アレイマイクがONの状態



アレイマイクがOFFの状態

主な機能について

ダッカー機能

本製品は入力チャンネルSTにダッカー機能を搭載しています。

スピーチの始まりおよび終わりに合わせて、BGMの音量を自動で小さくしたり、元に戻したりする機能です。常にBGMを流していて、途中でスピーチやアナウンスが入る場所で便利な機能です。

ダッカーを設定する

1. ウェブリモートを起動し、「管理者」でログインします。



3. 「Enable」をクリックします。

・ BUS1にアサインした信号がトリガーになり、入力チャンネルSTにダッキングがかけられます。



2. 「Ducker」をクリックします。



メニュー項目一覧

音声設定

Input

項目名		設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
入力チャンネル1~6	チャンネル番号	CH 1~6	-	-	-
	入力タイプ切替*1	Ch1~4: Mic, Virtual Mic Ch5, 6: Mic, Line 0dBV, Line +4dBu, Line -10dBV, Line -20dBV, Virtual Mic	Mic	✓	✓
	入力ゲイン	+20dB~+60dB -20dBu~-60dBu	+20	✓	✓
	ファントム電源	On, Off	Off	✓	-
	フェーズ	On, Off	Off	✓	✓
	ローカット(120Hz, -12dB/oct)	On, Off	Off	✓	✓
	4バンドEQ	On, Off	Off	✓	✓
	OUT 1 AEC OUT 2 AEC OUT ST AEC*2	On, Off	Off	✓	✓
	OUT 1 NC*2 OUT 2 NC*2 OUT ST NC*2				
	Smart Mix	Disable, Enable, Priority, Mixing	Disable	-	-
	Output 1 Bus	On, Off	Off	✓	✓
	Output 2 Bus	On, Off	Off	✓	✓
	Output ST Bus*3	On, Off	Off	✓	✓
	レベルメーター	60Point + Pk.	-	-	-
	レベル	-∞, -120dB~+10dB	-∞	✓	✓
	チャンネル名	(最大10byte)	CH 1~6	✓	✓
	チャンネル色	グリーン、イエロー、ブラウン、レッド、ピンク、ブルー、グレー、ダークグレー	グリーン	✓	✓
	チャンネルミュート	On, Off	Off	✓	✓
	5、6chリンク (チャンネル5、6のみ)	5、6chリンク解除、5、6chリンク	5、6chリンク解除	✓	✓
	Max Volume	On, Off	Off	✓	✓
コピー	-	-	-	-	
リセット	-	-	-	-	
入力チャンネルST	チャンネル番号	ST	-	-	-
	入力タイプ切替	Line -10dBV, Line -20dBV, USB	Line -10dBV	✓	✓
	入力ゲイン	-20dB~+20dB	0	✓	✓
	4バンドEQ	On, Off	Off	✓	✓
	Output 1 Bus	On, Off	Off	✓	✓
	Output 2 Bus	On, Off	Off	✓	✓
	Output ST Bus*3	On, Off	Off	✓	✓
	レベルメーター	60Point + Pk.	-	-	-
	レベル	-∞, -120dB~+10dB	-∞	✓	✓
	チャンネル名	(最大10byte)	AUX	✓	✓
	チャンネル色	グリーン、イエロー、ブラウン、レッド、ピンク、ブルー、グレー、ダークグレー	グリーン	✓	✓
	チャンネルミュート	On, Off	Off	-	✓
	Max Volume	On, Off	Off	✓	✓
コピー	-	-	-	-	
リセット	-	-	-	-	
Virtual Mic	Orientation	0~330deg	0deg	✓	✓
	Pattern	Wide, Normal, Omni	Normal	✓	✓
	Tilt	0deg, 45deg	0deg	✓	✓
4 Band EQ	モード切替	簡易モード⇔詳細モード	詳細モード	-	✓
	EQプリセット呼び出し		-	✓	✓
	簡易モード	音声種類選択 トーン	High、Mid、Low Warm、Warm-1、Warm-2、Warm-3、Warm-4、Warm-5、Warm-6、Natural、Bright-6、Bright-5、Bright-4、Bright-3、Bright-2、Bright-1、Bright	Mid Natural	✓ ✓

メニュー項目一覧

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
4 Band EQ	詳細モード	バンド1 ゲイン	-18dB～+18dB	0	✓	✓
		バンド1 周波数	20Hz～20kHz	25	✓	✓
		バンド1 Q値	0.3～60	0.75	✓	✓
		バンド1 フィルタータイプ	HPF, LSH, PEQ	PEQ	✓	✓
		バンド2 ゲイン	-18dB～+18dB	0	✓	✓
		バンド2 周波数	20Hz～20kHz	63	✓	✓
		バンド2 Q値	0.3～60	0.75	✓	✓
		バンド3 ゲイン	-18dB～+18dB	0	✓	✓
		バンド3 周波数	20Hz～20kHz	6.3k	✓	✓
		バンド3 Q値	0.3～60	0.75	✓	✓
		バンド4 ゲイン	-18dB～+18dB	0	✓	✓
		バンド4 周波数	20Hz～20kHz	16k	✓	✓
	バンド4 Q値	0.3～60	0.75	✓	✓	
	リセット		-	-	-	-
Smart Mix mode	Enable		On, Off	Off	✓	✓
Gain Share	Gain Share Meter		0～-15	-	-	-
	Weight		-15～15	0	✓	✓
Gate	Priority		On, Off	Off	✓	✓
	Can Cut		On, Off	Off	✓	✓
	Off Attenuation		-60db～0dB	-40	✓	✓

*1 「5、6chリンク」のときは、「Mic」は選択できません。

「アレイマイク切替」がEnableのときは、Ch1～4は「バーチャルマイク」になります。

*2 「AEC」のModeが「NC」のときは、表示が「Output L/R NC」になります。

*3 「AEC」のModeが「NC」のときは、表示が「Output L/R Bus」になります。

Smart Mix

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
Smart Mix	Mode		Off, Gate, Gain Share	Gain Share	✓	✓
	Last Mic On		On, Off	Off	✓	✓
	Hold Time		0.1秒～10.0秒	2.5	✓	✓
	NOMA		On, Off	Off	✓	✓
	Num of Open Mics		1～6	6	✓	✓
	Priority Mode		Mode1、Mode2	Mode1	✓	✓
	Fixed threshold		On, Off	Off	✓	✓
	Threshold Level		-80～0	-50	✓	✓

AEC

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム	
AEC	Mode		Off, AEC、NC	AEC	✓	✓	
	Output Bus		1、2、ST*	1	✓	✓	
	AEC Reference		OUT1、OUT2、OUT ST* IN 1～6、AUX、External	OUT1	✓	✓	
	Send Reference for External		On, Off	Off	✓	✓	
	Advanced Settings	AEC Sensitivity		Low, High	Low		
		NC Attenuation Level		0dB～20dB	10	✓	✓
		NLP		On, Off	On	✓	✓
		NLP Sensitivity		Low, High	Low	✓	✓
	Reference Level		-60dB～+10dB	0	✓	✓	
	ERL Meter		60 Point.	-	-	-	
	ERLE Meter		60 Point.	-	-	-	
	TER Meter		60 Point.	-	-	-	
	Reference Level Meter		60 Point.	-	-	-	
	AEC Calibration		-	-	-	-	

* 「出力モード切替」がONのときは、表示が「L/R」になります。

メニュー項目一覧

Ducker

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
Ducker	Ducker		Enable, Disable	Disable	✓	✓

Output

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
チャンネル名			(最大30文字まで(ASCIIコードのみ))	OUT 1, OUT 2	-	-
Unity (Output 1/2)			+4dBu, 0dBV, -10dBV	+4dBu	✓	✓
Unity (Output ST)			-33dBV, -10dBV	-10dBV	✓	✓
レベル			-∞, -120dB~+10dB	-40dB	-	-
レベルメーター			60 Point + Pk.	-	-	-
FBS			On, Off	Off	✓	✓
EQ			On, Off	Off	✓	✓
Dynamics			On, Off	Off	✓	✓
Delay	Enabled		On, Off	Off	✓	✓
Delay設定			0ms~1000ms, 0.34M~340.00M, 1.12Ft~1115.20Ft	0ms, 0.34M, 1.12Ft	✓	✓
Max Volume			On, Off	Off	✓	✓
コピー			-	-	-	-
リセット			-	-	-	-

USB OUT

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
USB Out	Bus Select	OUT 1	On, Off	Off	✓	✓
		OUT 2	On, Off	Off	✓	✓
		OUT ST*	On, Off	Off	✓	✓
		AEC OUT	On, Off	Off	✓	✓
	Send Level		-∞, -120dB~0dB	0	✓	✓

* 「出力モード切替」がONのときは、表示が「Output L/R」になります。

音声出力の詳細設定

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム	
Feedback Suppressor Setting	Output 1, 2, ST	Band #1~8	Current frequency	-	-	-	
			Band switch	On, Off	Off	✓	✓
			Reset	-	-	-	-
			Copy to 12 Band EQ	-	-	-	-
		FBS common settings	Detection	Low, Mid, High	High	✓	✓
		Response	Slow, Fast	Fast	✓	✓	
12 Band EQ Setting	Output 1, 2, ST	バンド1 有効	On, Off	On	✓	✓	
		バンド1 ゲイン	-18dB~+18dB	0	✓	✓	
		バンド1 周波数	20Hz~20kHz	20	✓	✓	
		バンド1 Q値	0.3~60	0.75	✓	✓	
		バンド1 フィルタータイプ	HPF, LSH, PEQ	PEQ	✓	✓	
		バンド2 有効	On, Off	On	✓	✓	
		バンド2 ゲイン	-18dB~+18dB	0	✓	✓	
		バンド2 周波数	20Hz~20kHz	30	✓	✓	
		バンド2 Q値	0.3~60	0.75	✓	✓	
		バンド3 有効	On, Off	On	✓	✓	
		バンド3 ゲイン	-18dB~+18dB	0	✓	✓	
		バンド3 周波数	20Hz~20kHz	60	✓	✓	
		バンド3 Q値	0.3~60	0.75	✓	✓	
		バンド4 有効	On, Off	On	✓	✓	
		バンド4 ゲイン	-18dB~+18dB	0	✓	✓	
		バンド4 周波数	20Hz~20kHz	120	✓	✓	
バンド4 Q値	0.3~60	0.75	✓	✓			

メニュー項目一覧

音声出力の詳細設定

項目名		設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム	
12 Band EQ Setting	Output 1, 2, ST	バンド5 有効	On, Off	On	✓	✓
		バンド5 ゲイン	-18dB~+18dB	0	✓	✓
		バンド5 周波数	20Hz~20kHz	240	✓	✓
		バンド5 Q値	0.3~60	0.75	✓	✓
		バンド6 有効	On, Off	On	✓	✓
		バンド6 ゲイン	-18dB~+18dB	0	✓	✓
		バンド6 周波数	20Hz~20kHz	500	✓	✓
		バンド6 Q値	0.3~60	0.75	✓	✓
		バンド7 有効	On, Off	On	✓	✓
		バンド7 ゲイン	-18dB~+18dB	0	✓	✓
		バンド7 周波数	20Hz~20kHz	1k	✓	✓
		バンド7 Q値	0.3~60	0.75	✓	✓
		バンド8 有効	On, Off	On	✓	✓
		バンド8 ゲイン	-18dB~+18dB	0	✓	✓
		バンド8 周波数	20Hz~20kHz	2k	✓	✓
		バンド8 Q値	0.3~60	0.75	✓	✓
		バンド9 有効	On, Off	On	✓	✓
		バンド9 ゲイン	-18dB~+18dB	0	✓	✓
		バンド9 周波数	20Hz~20kHz	4k	✓	✓
		バンド9 Q値	0.3~60	0.75	✓	✓
		バンド10 有効	On, Off	On	✓	✓
		バンド10 ゲイン	-18dB~+18dB	0	✓	✓
		バンド10 周波数	20Hz~20kHz	8000	✓	✓
		バンド10 Q値	0.3~60	0.75	✓	✓
		バンド11 有効	On, Off	On	✓	✓
		バンド11 ゲイン	-18dB~+18dB	0	✓	✓
		バンド11 周波数	20Hz~20kHz	1.6k	✓	✓
		バンド11 Q値	0.3~60	0.75	✓	✓
		バンド12 有効	On, Off	On	✓	✓
		バンド12 ゲイン	-18dB~+18dB	0	✓	✓
バンド12 周波数	20Hz~20kHz	20k	✓	✓		
バンド12 Q値	0.3~60	0.75	✓	✓		
バンド12 フィルタータイプ	LPF, HSH, PEQ	PEQ	✓	✓		
	Flat	-	-	-	-	
	EQプリセット呼び出し	-	-	✓	✓	
	EQプリセット保存	-	-	✓	✓	
	リセット	-	-	-	-	
Dynamics Setting	Output 1, 2, ST	Input Level	-	-	-	-
		Gain Reduction	-	-	-	-
		Output Level	-	-	-	-
		Compressor Ratio	1:1.4, 1:2, 1:4, 1:6, 1:10, 1:∞	1:2	✓	✓
		Compressor Threshold	-60dB~0dB	-10	✓	✓
		Compressor Attack	0msec, 0.25msec, 0.5msec, 1msec, 2msec, 4msec, 8msec, 16msec, 32msec, 100msec	1msec	✓	✓
		Compressor Release	50msec, 100msec, 200msec, 400msec, 800msec, 1000msec, 2000msec	400msec	✓	✓
		Output Gain	+10dB~-10dB	0	✓	✓
		Limiter Threshold	-60~0dB	0	✓	✓

メニュー項目一覧

設定&保守

システム設定

一般

項目名		設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
機器名称	機器名称	(最大30文字まで(ASCIIコードのみ))	ATDM-0604	-	✓
	ヘッダーカラー	ホワイト、グリーン、イエロー、オレンジ、パープル、ブルー、シアン	ホワイト	-	✓
Audio-Technica LINKモード	Audio-Technica LINKモード	親機、子機	親機	-	✓

ネットワーク

項目名		設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
IP設定	IPコンフィグ・モード	オート、固定	オート	-	✓
	IPアドレス	0.0.0.0~255.255.255.255	-	-	✓
	サブネット・マスク	0.0.0.0~255.255.255.255	-	-	✓
	ゲートウェイ・アドレス	0.0.0.0~255.255.255.255	-	-	✓
自動検出許可	作動	On, Off	On	-	✓
IPコントロール設定	ポート番号	00001~65535	17300	-	✓
	通知	On, Off	On	-	✓
	音量通知	On, Off	On	-	✓
	マルチキャスト・アドレス	0.0.0.0~255.255.255.255	225.0.0.100	-	✓
	マルチキャスト・ポート番号	00001~65535	17000	-	✓
NTP設定	作動	On, Off	Off	-	✓
	サーバー・アドレス	0.0.0.0~255.255.255.255	-	-	✓
	ポート番号	00001~65535	123	-	✓
	タイムゾーン	UTC -12:00~+14:00	00:00	-	✓
	サマータイム	On, Off	Off	-	✓
	開始日時	1/1~12/31, 0:00~23:00	3/27, 2:00	-	✓
	終了日時	1/1~12/31, 0:00~23:00	10/30, 2:00	-	✓

アクセス制限

項目名		設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
ログイン・パスワード	管理者パスワード	On, Off (最小4文字、最大8文字(アルファベットと数字のみ))	Off	-	✓
デバイスアクセス許可	アクセス制限	On, Off	Off	-	✓
	IP1~IP5	0.0.0.0~255.255.255.255	-	-	✓

オーディオ

項目名		設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
オーディオシステム	ゲイン単位	dBu/dBV, dB	dB	-	-
	ディレイ単位	ms, M, Ft	ms	-	-
	出力モード切替	On, Off	Off	-	-
	Virtual Micモード	On, Off	Off	✓	✓

フロントパネル

項目名		設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
レベル	INPUT: 1~6CH, ST OUTPUT: 1, 2, ST	Enable, Disable	Enable	-	✓
フロントパネル制限	プリセット呼び出し可能	Enable, Disable	Enable	-	✓
	詳細設定可能	Enable, Disable	Enable	-	✓
LEDディマー	LEDディマー	On, Off	Off	-	✓

メニュー項目一覧

ユーティリティ

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
ファームウェアアップデート			-	-	-	-
言語バックインストール			-	-	-	-
全設定を初期化			-	-	-	-

操作者権限

操作者用ページ

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
フェーダー設定	フェーダー1~8	表示	On, Off	Off (Fader 1: On)	✓	✓
		ミュート	On, Off	Off	✓	✓
		フェーダー 名称	On, Off (最大10文字まで(ASCIIコードのみ))	Off	✓	✓
		アイコン	Mic, Aux, PC, Chat, Spk, Rec	Mic	✓	✓
		レベル	0~100	70	✓	✓
		Max Volume	On, Off	Off	✓	✓
		アサイン	INPUT: 1~6, ST OUTPUT: 1, 2, ST	Off (INPUT1 1: On)	✓	✓
操作者用ページ制限	プリセット呼び出し		On, Off	On	✓	✓
	プリセット番号		1~6	6	✓	✓
	フェーダーポジション 保存		On, Off	Off	✓	✓
	ログアウトボタン		On, Off	On	✓	✓
	アレイマイク切替		On, Off	Off	✓	✓

プリセット

プリセット

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
プリセット	プリセット名称		(最大30byte)	Preset 1~6	✓	-
	起動時プリセット		1~6, Non	Non	-	✓

4 Band EQ ライブラリー

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
4 Band EQ ライブラリー	EQプリセット名称		(最大30byte)	EQ Preset 01 ~20	-	✓

12 Band EQ ライブラリー

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
12 Band EQ ライブラリー	EQプリセット名称		(最大30byte)	EQ Preset 01 ~20	-	✓

ログ設定

ログ設定

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
ログ設定	作動		On, Off	On	-	✓
	出力先		Internal, Syslog	Internal	-	✓
	ログファイル		-	-	-	-

システム情報

システム情報

項目名			設定値	デフォルト値	プリセットに含まれる項目	レジューム
システム情報			-	-	-	-

故障かな？と思ったら

問題が発生した場合は、下記を確認してください。

- 接続が正しいか確認してください。
- 取扱説明書に記載されている通りに、システムを運用しているか確認してください。
- 外部機器が正しく動作しているか確認してください。本製品に接続していない状態で確認してください。
- ネットワーク機器を再起動してください。

システム上のいずれかの機器が正しく動作しない場合は、下記の項目を確認してください。

該当する項目がない場合は、当社プロフェッショナルSS課までご連絡ください。

お問い合わせの際に、ファームウェアのバージョン情報が必要な場合があります。あらかじめファームウェアのバージョンを確認してください。

本製品で確認する場合：P.17を参照してください。

ウェブリモートで確認する場合：P.42を参照してください。

ATDM-0604本体

症状	原因・対策	参照ページ
電源が入らない。	電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。	-
接続したマイクが機能しない。	マイクが正しく接続されているか確認してください。	-
	入カタイプ(MIC / LINE)はMICを選択しているか確認してください。	P.15、P.25
	コンデンサーマイクロホンを使用するとき、ファントム電源はONになっているか確認してください。	P.15、P.25
	ゲインを確認してください。	P.15、P.25
	入力レベルを確認してください。	P.15、P.28
接続したスピーカーから音が出ない。 音がひずむ。	すべての機器の接続を確認してください。	-
	コンデンサーマイクロホンを使用するとき、ファントム電源はONになっているか確認してください。	P.15、P.25
	ファントム電源がONの状態、ファントム電源を必要としない機器に接続していませんか？ ファントム電源を必要としない機器にファントム電源を供給すると、接続機器に不具合を発生させる恐れがありますのでご注意ください。	-
	接続したアンプの設定を確認し、調整してください。	-
	バランスケーブルが破損していないか確認してください。	-
	バランスケーブルをしっかりと奥まで差し込んでください。	P.9
	入力端子・出力端子を間違えて接続していないか確認してください。	-
	入力端子・出力端子のピンアサインを間違えていないか確認してください。	-
	入力レベル、出力レベルが小さくなっていませんか？	P.15、P.28、 P.35
	ミュートになっていませんか？	P.28
音がおかしい。	入力ゲインを調整してください。	P.15、P.25
	音がこもったり、音量が不足している場合は、各イコライザーの設定値を確認してください。	-
ハウリングが抑えられない。	FBS(フィードバックサプレッサー)の設定を確認してください。 フィルターの数を越えるハウリングが発生している場合は、ハウリングを抑制しきれないため、スピーカーの音量を小さくしてください。	P.30
フロントパネルのボタンが反応しない。	フロントパネルをロックしていませんか？	P.17

故障かな？と思ったら

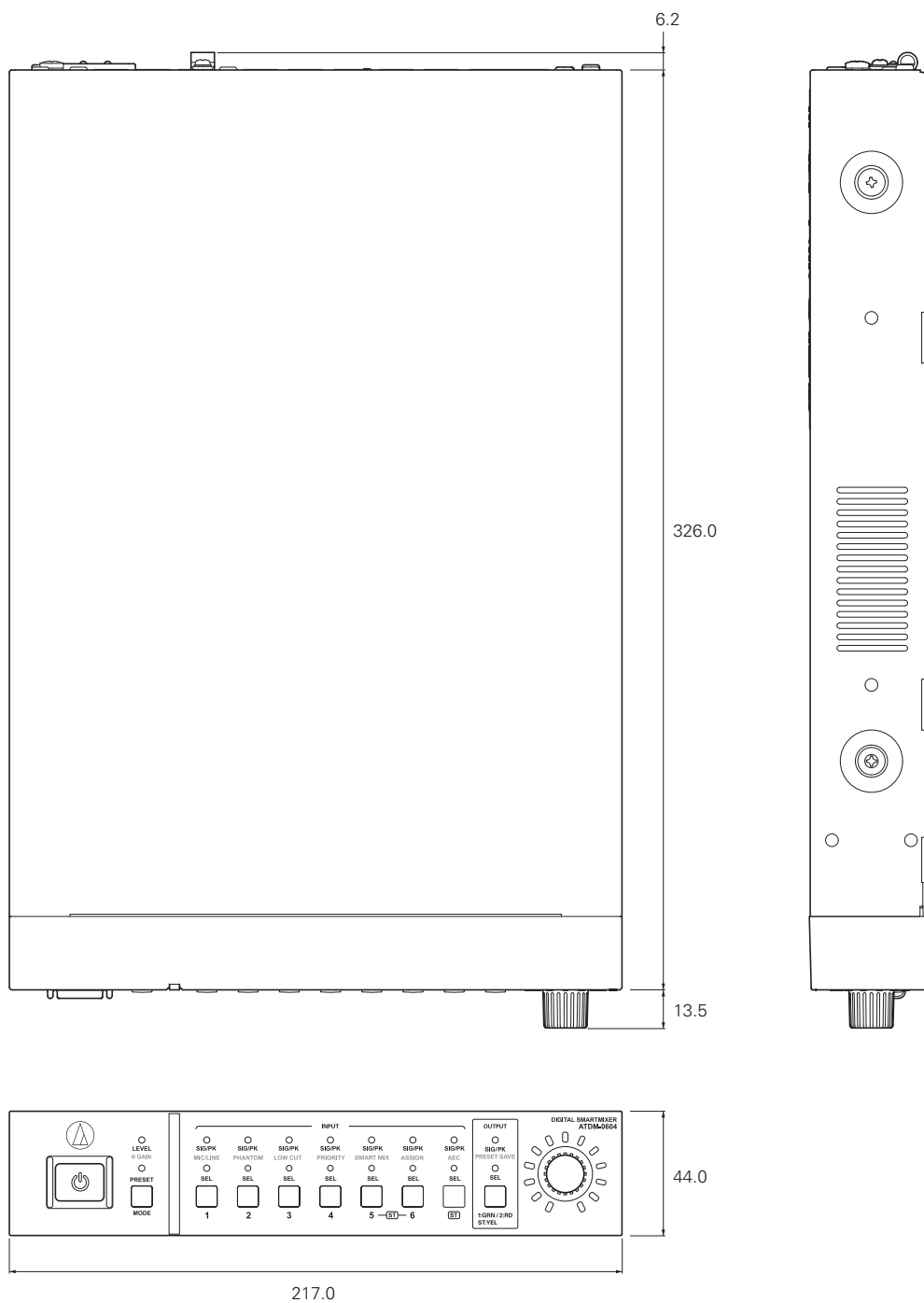
ウェブリモート

症状	原因・対策	参照ページ
本製品を"Locate"で認識できない。	本製品およびパソコンなどのコントロール機器の各接続を確認してください。	-
	本製品とパソコンなどのコントロール機器が同じネットワークに接続されているか確認してください。	-
	ファイヤーウォールの設定を見直してください。	-
ウェブリモートをiPadやタブレットなどのコントロール機器から開けない。	コントロール機器が正しいアクセスポイントに接続されているか確認してください。	-
	本製品と、iPadやタブレットなどのコントロール機器が同じネットワークに接続されているか確認してください。	-
パスワードを忘れてしまった。	以下の手順でパスワードをリセットしてください。 1. 電源ボタンを押して本製品を起動します。 2. MODEボタンを押す、またはMODEボタンを押しながらダイヤルボタンを回して、「PRESET」を選択します。 3. OUTPUT SELボタンを押したまま、ダイヤルボタンを右に3クリック分回します。 4. OUTPUT SELボタンを押したまま、ダイヤルボタンを左に3クリック分回します。 5. OUTPUT SELボタンを押したまま、ダイヤルボタンを押します。 ウェブリモートのパスワードがリセットされます。 必要に応じて、再度ウェブリモートにログインして、パスワードを設定し直してください。	-

エラーメッセージ一覧

症状	原因・対策	参照ページ
Resume Data Error	レジュームデータの読み込みに失敗しました。 前回の設定、もしくはデフォルト設定で起動しました。	再起動時に同じエラーが発生しないか確認してください。
Preset Data Error	プリセットデータの読み込みに失敗しました。 プリセットデータは、前回読み込みに成功したプリセット、もしくはデフォルト時のプリセットとなります。	再起動時に同じエラーが発生しないか確認してください。
Library Data Error	EQ ライブラリーの読み込みに失敗しました。 前回の設定、もしくはデフォルト設定で起動しました。	再起動時に同じエラーが発生しないか確認してください。
AT-Link Connection Error	Audio-Technica LINK で接続している ATDM-0604 との通信に異常が発生しました。 Audio-Technica LINK の動作を停止しました。	ネットワーク接続に問題がないか確認してください。
AT-Link OFF	Audio-Technica LINK を解除し、動作を停止しました。	ネットワーク接続に問題がないか確認してください。
Detect Exceeded Link Units	ATDM-0604 の接続可能台数を超過しました。 Audio-Technica LINK の動作を停止しました。	接続台数を確認してください。
Detect Multi Primary Units	ATDM-0604 の親機が複数台検出されました。 Audio-Technica LINK の動作を停止しました。	親機を 1 台のみに設定してください。
Detect Ring Connection	リング接続が検出されました。 Audio-Technica LINK の動作を停止しました。	リング接続はしないでください。接続両端の ATDM-0604 の LINK 端子は、必ずどちらか一方が接続されていない状態としてください。
Network Communication Error	ネットワーク通信に異常が発生しました。 IP コマンド通信に異常が発生しました。	ネットワーク接続に問題がないか確認してください。
Access from Non Permitted Device	接続を許可されていない機器から接続されました。	ネットワーク接続に問題がないか確認してください。
File Import Failed	プリセットファイルがインポートできません。	<ul style="list-style-type: none"> ファイルフォーマットが正しいか確認してください。 ネットワークが途中で切断された恐れがあります。
File Export Failed	プリセットファイルがエクスポートできません。	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークが途中で切断された恐れがあります。
Failed	何らかのシステム要因で設定できません。	再操作してエラーが発生するか確認してください。
Failed. Please turn power OFF.	ファームウェアアップデートのときに、エラーが発生しました。	本製品を再起動し、同じエラーが発生しないか確認してください。
Data acquisition error.	ウェブリモートの操作時にデータの取得に失敗しました。	再操作してエラーが発生するか確認してください。
USB Disconnected	パソコンと正しく USB 接続されていません。	<ul style="list-style-type: none"> パソコンとの USB 接続が正しく接続されているか確認してください。 別のパソコンと接続して同じエラーが発生しないか確認してください。
Synchronous Disconnect	パソコンとの同期に失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> パソコンとの USB 接続が正しく接続されているか確認してください。 別のパソコンと接続して同じエラーが発生しないか確認してください。
Can not COPY	EQ プリセットに空きがないため、コピーができません。 静的状態になっているバンドを、12バンドEQのバンドへコピーするのに失敗しました。	EQ プリセットに空きがあるか確認してください。 12バンドEQ側のEQがOFFになっているバンドがコピー対象です。設定を確認してください。
Cancel Time is not enough.	残響測定結果が160ms以上です。	AECレスポンスをLOWに変えるかを確認する画面が表示されます。画面の指示に従って設定を確認してください。
AEC dosen't work	AECが正しく機能していません。	AECの設定を確認してください。
Time out Error.	AECの残響測定を行う際に、タイムアウトエラーしました。	再度測定を行ってください。

外形寸法図



(単位: mm)

テクニカルデータ

一般仕様

電源	AC 100V～240V 50/60Hz	
消費電力	17W	
動作温度範囲	0～40℃	
動作湿度範囲	25～85%(結露なきこと)	
外形寸法(突起物を除く)	217×326×44mm(W×H×D)	
質量	1.85kg	
仕上げ	フロントパネル	シルバーライン付きブラック
	上面/背面/側面	ブラック

オーディオ

周波数特性	20Hz～20kHz(MIC -16dBu)	+1.0/-1.0dB
	20Hz～20kHz(MIC -60dBu)	+1.0/-2.0dB
	20Hz～20kHz(LINE 24dBu)	+1.0/-1.0dB
	20Hz～20kHz(LINE -40dBu)	+1.0/-2.0dB
ダイナミックレンジ	110dB以上、A-weighted・ST	
S/N比	90dB以上、A-weighted・ST	
ヘッドルーム	20dB以上	
入力換算雑音	-126dBu以下、Rs=150ohm、DIN	
同相信号除去比	80dB以上、1kHz	
残留雑音	-86dBu以下、A-weighted	
最大ゲイン	64dB	
チャンネルセパレーション	-80dB以下、1kHz ユニティ	
全高調波歪率	0.03%以下、1kHz ユニティ	
アナログ入力	MIC最大	0dBu
	MICユニティ	-40dBu
	LINE最大	+24dBu
	LINEユニティ	+4dBu/0dBV/-10dBV/-20dBV
	ST最大	+10dBV
	STユニティ	-10dBV/-20dBV
アナログ出力	UNBAL最大	+10dBV/-13dBV
	UNBALユニティ	-10dBV/-33dBV
	BAL 1/L・2/R最大	+24dBu/20dBV/+10dBV
	BAL 1/L・2/Rユニティ	+4dBu/0dBV/-10dBV

テクニカルデータ

その他

ファントム電源		DC+48V
PAD(減衰レベル)		-24dB
I/Oコネクタ	INPUT ST	ユーロブロック(3ピン)
	INPUT MIC/LINE 5, 6	ユーロブロック(3ピン)
	INPUT MIC 1~4	ユーロブロック(3ピン)
	OUTPUT UNBAL	ユーロブロック(3ピン)
	OUTPUT BAL 1/L・2/R	ユーロブロック(3ピン)
レベルインジケータ	SIGNAL/PEAK	1 point(赤/黄/緑)
	ピーク点灯(赤)	-5~0dB
	ピークホールドタイム	2 sec
リモートコントロール	IPプロトコル	RJ-45×1 pcs
	IPアドレス	192.168.33.102 (工場出荷時)
	通信速度	100Mbps
リンクI/O	IPプロトコル	RJ-45×2 pcs
	通信速度	100Mbps
USB Type B	チャンネル	ステレオ入力×1ch、ステレオ出力×1ch(24bit)
	通信速度	High-speed(480Mbps)
A/Dコンバーター	解像度	24bit
	ダイナミックレンジ	115dB
D/Aコンバーター	解像度	24bit
	ダイナミックレンジ	115dB
付属品		ユーロブロックコネクタ ×10、ラックマウント(長・短)、ラックマウントねじ×6、電源ケーブル、ゴム脚×4

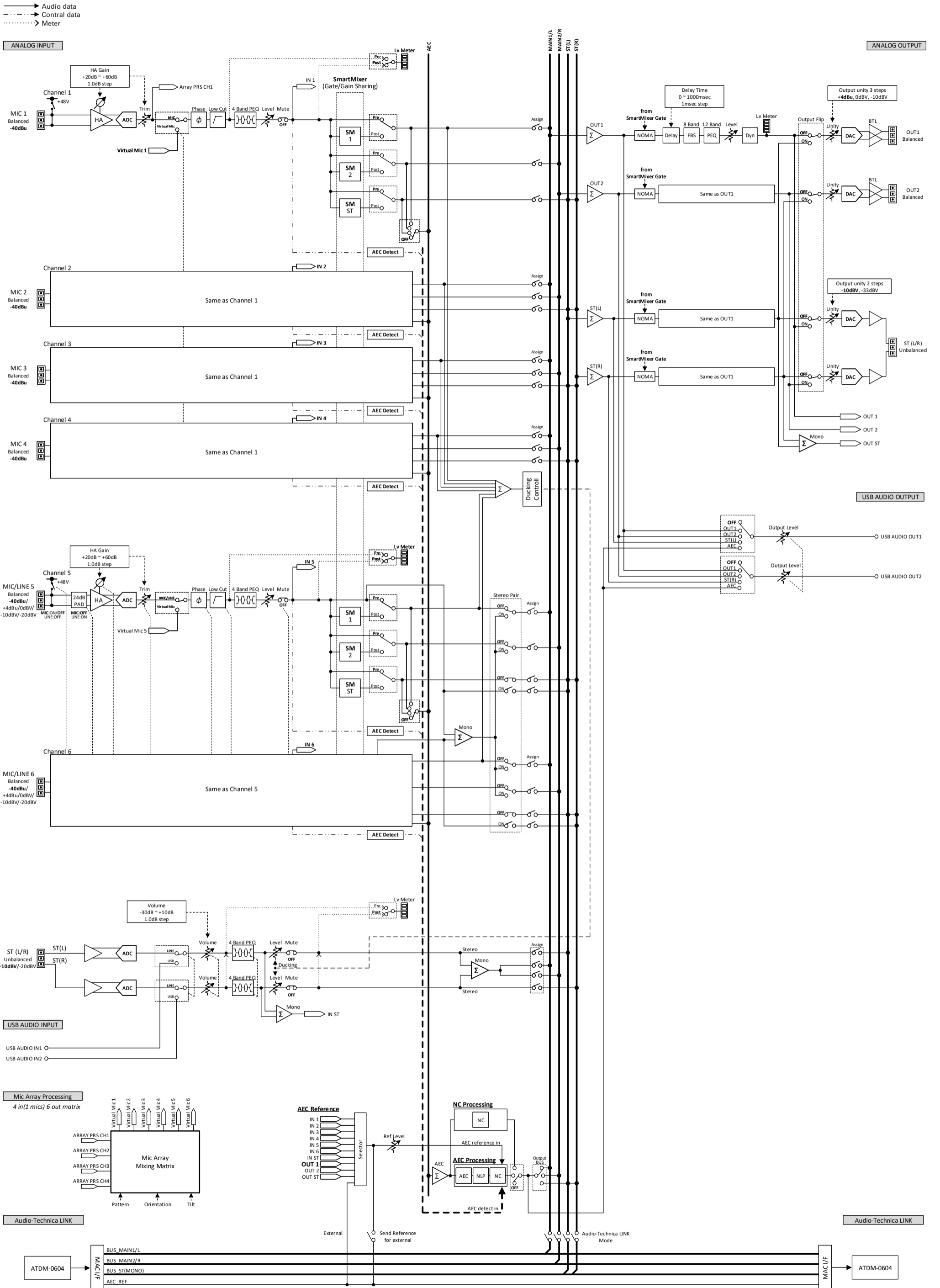
入力/出力仕様

アナログ入力仕様

入力端子	ゲイン	負荷インピーダンス	入力レベル			コネクタ	バランス/アンバランス
			最小値	公称値	最大値		
MIC 1~4	20~60dB	1.6k Ω	-60dBu	-40dBu	-20dBu	ユーロブロック	バランス
MIC / LINE 5, 6	MIC	1.6k Ω	-60dBu	-40dBu	-20dBu	ユーロブロック	バランス
	LINE	10k Ω	-40dBu	+4dBu / 0dBV / -10dBV / -20dBV	+24dBu	ユーロブロック	バランス
ST(L/R)	-	10k Ω	-	-10dBV / -20dBV	+20dBV	ユーロブロック	アンバランス

アナログ出力仕様

出力端子	負荷インピーダンス	出力レベル			コネクタ	バランス/アンバランス
		最小値	公称値	最大値		
UNBAL(L/R)	150 Ω	-	-33dBV / -10dBV	-13dBV / +10dBV	ユーロブロック	アンバランス
BAL 1/L・2/R	150 Ω	-	-10dBV / 0dBV / +4dBu	+10dBV / +20dBV / +24dBu	ユーロブロック	バランス



株式会社オーディオテクニカ

〒194-8666 東京都町田市西成瀬2-46-1
www.audio-technica.co.jp

©2019 Audio-Technica Corporation

製品保証および修理などにつきましてはお買い上げのお店、
または当社プロフェッショナルSS課までお問い合わせください。

222304240-01-04 ver.1 2017.11.15
ver.4 2019.02.01